

— 1993, April —

鹿児島大学生物研究会々誌

# LEBEN

第 23 号

鹿児島大学学友会生物研究会

# 巻頭言

主将 永田武志

若者こそ世の中の核だ、活力源だ、という類の言葉を耳にすることがあります。

が、大学生ともなると酒にタバコにパチンコにマージャン、その他にもいろいろな娯楽が身の回りにあふれているため、のらりくらりとした生活を送る者も数え切れぬ程おり、同じ若者とは言えども高校生のほうがずっと活気に満ちていて若者らしいような気がします。私などは先日春高バレーを観戦し、高校生の真贐な姿に心洗われる思いがしたものです。

「ボン！」

おやっ、今日もジャラジャラやっているようです。

ある人が言いました、「全てのものには時と意味があるのだ。好機を逸することは大きな悔いを生じ、その悔いは人にもよるがたいてい長く尾を引く。好機を逸することにも多分何か意味があるのだろうか…」と。

現在我々は気楽な学生として、また一方では鹿児島大学生物研究会の会員としても存在しています。鹿児島にいるということは、よその土地まで出かけて活動する場合には時間的・金銭的にもその他多くの面でも負担が大きいことを意味する反面、鹿児島で活動する場合には極めて身近に存在する鹿児島なりの特質をうまく利用できるということでもあります。のらりくらりとした学生達は鹿児島の生物に関する活動を通して若者の力を世間に示すことができれば、と考えています。

ふと窓の外を見ると何か薄暗い。今年は黄砂がやってくるのが早いようです。

隣では何やらジャラジャラジャラ、カチッカチッ、コン！

はたして私が巻頭言なるものに頭を悩ませている間、牌を使った遊びは続いていたのでしょうか。

「対七(トイシチ)！」

威勢のよい声が耳に飛び込んできます。



# 目次

巻頭言	永田武志
● 1992年悪石島春旅行の報告	1
・キノコの採集記録	中村理樹 3
・チョウ類の採集・観察記録	桐野敦子 5
・甲虫の採集記録	米沢俊彦 9
● 1992年沖永良部島夏合宿の報告	11
・淡水魚の採集記録	米沢俊彦 15
・キノコの採集記録	中村理樹 17
・蘚苔類の採集記録	光永佳奈枝 19
・甲虫の採集記録	永田武志・藤田寛・姫野尊雄 22
・チョウ類の採集・観察記録	桐野敦子・倉園憲 32
・〔短報〕クロボシセセリを沖永良部島で採集	倉園憲 41
● 上甌島中津川の魚類とエビ類	永田武志 42
● 1992年梅雨時の与論島の甲虫	永田武志 45
● ヒョウタンゴミムシの採集	姫野尊雄 48
● 1991年リュウキュウムラサキ飼育報告	桐野敦子 49
● LEBEN第22号の訂正	8
● 会員名簿	51
● 編集後記	光永佳奈枝 52

# 1992年悪石島春旅行の報告

1992年3月16日から3月21日まで吐噶喇列島悪石島へ生物研究会春旅行に行ったのでその報告を以下に記す。

## ○メンバー

桐野敦子・中村理樹・米沢俊彦

## ○日程、コース

3月16日(月)：部室集合(20:30) 車 鹿児島港(22:00) 船 [村営船としま]

17日(火)：やすら浜港(9:30) 車 上村(10:00)

↓ 上村を拠点にして採集・観察を行う

20日(金)：やすら浜港(14:30) 船 [村営船としま]

21日(土)：鹿児島港(3:00) 車 部室到着(3:30)

\*コースの中で車は車、船は船を表す。

\*村営船としまの運行予定表は2ヶ月前に発表されるが、その後も変更することがあるので直前に確かめる必要がある。

\*悪石島には公共の交通手段がなく、やすら浜港から上村までの高低差が160m程あるので、荷物が多いときには現地の方々の車に乗せていただかなければならない。

## ○天気

概して曇り気味であり、まともに晴れたのは帰る当日の20日だけであった。20日以外は時折晴れ間は見せるものの曇り若しくは小雨になり、17日の夜には雷混じりのどしゃ降りとなった。また夜は少々冷えた。

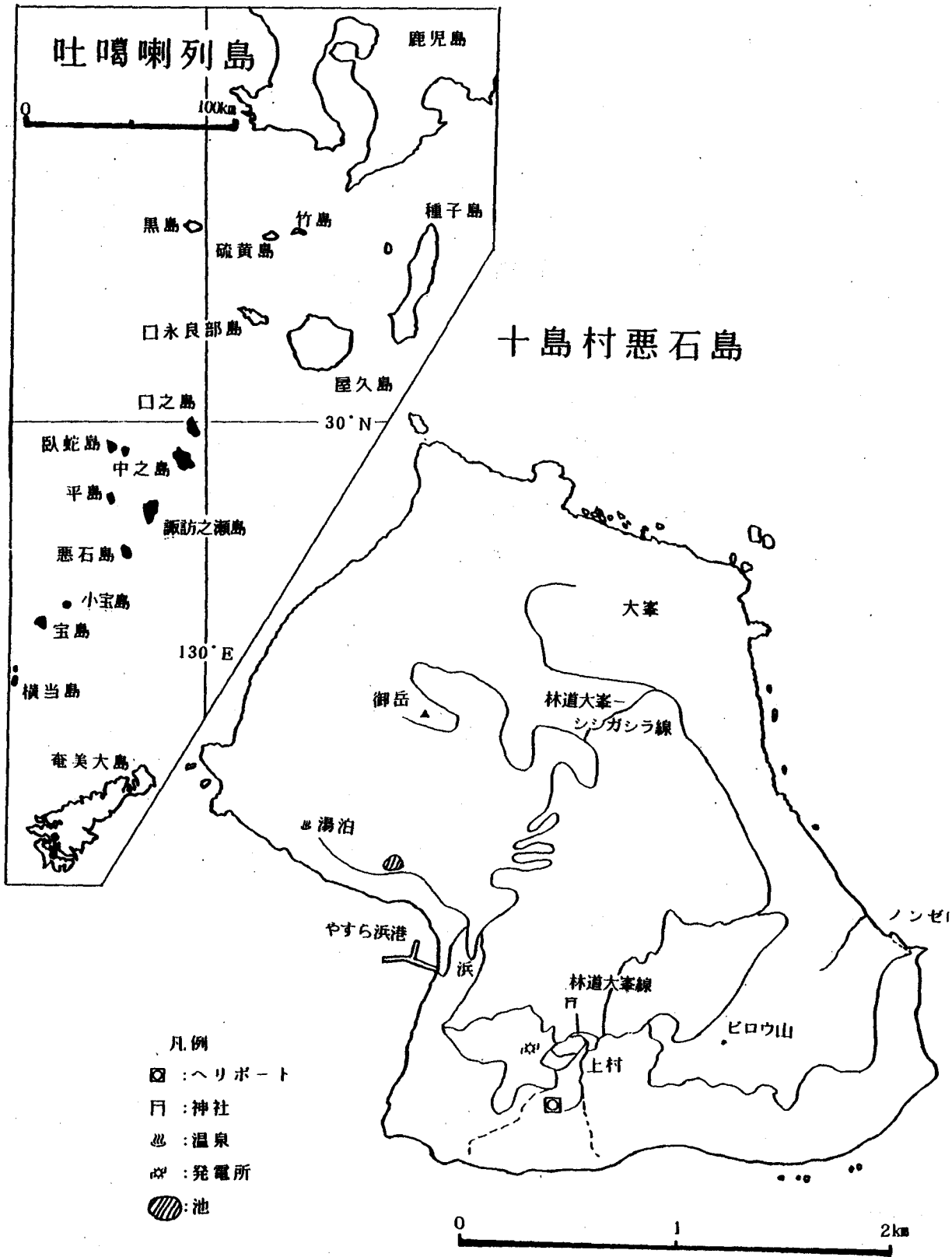
17日 ☁/☁ 18日 ↑/☁ 19日 ☁ 20日 ↑/☀

## ○地形・気候・植生等

悪石島は面積が7㎢の火山性の島で、海岸線は急な崖になっているところがほとんどで海に降りれるところは数ヶ所しかない。島で最も高い御岳(ミタケ)は標高584.0mで海岸から曲がりくねった道を一気に登る。頂上には電波塔があり諏訪之瀬島や宝島を望むことができる。悪石島を含む吐噶喇列島はその位置的な関係により温帯気候から熱帯気候への漸移帯で、この悪石島でも九州本土と動植物相が違っている。おおまかな植生を述べると、海岸近くの低所にはヒロウや数種の広葉樹の群落があるがそれらは小規模で、高所になると広い範囲で多数のリウキュウチクが占めている。林床は火山岩がごろごろしているか又は土があるところでも乾燥している。島の南の5分の1ほどが今牧場として開かれていて、それ以北は未開発のままか筍の林になっている。すでに述べた通り島には公共の交通機関はないが、歩いても島を一周するのに1日もあれば十分である。また、湯泊には公共の温泉があるのでいつでも無料で利用することができる。

最後になりましたが、悪石島においてお世話になった悪石島総代である坂元さんと島の方々に紙面を借りてお礼申し上げます。

[中村]



吐噶喇列島

鹿兒島

黒島

竹島

種子島

硫黄島

口永良部島

屋久島

口之島

30°N

十島村悪石島

臥蛇島

中之島

平島

諏訪之瀬島

悪石島

小宝島

宝島

130°E

大峯

横当島

御岳

林道大峯-  
シシガシラ線

奄美大島

湯泊

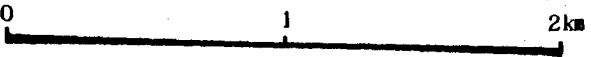
やすら浜港

林道大峯線

ピロウ山

凡例

- ☐ : ヘリポート
- ⌘ : 神社
- ♨ : 温泉
- ⚡ : 発電所
- 🟦 : 池



# キノコの採集記録

中村 理樹

○はじめに

今回悪石島で採集及び観察されたキノコを報告する。すでに述べた通り天気にも恵まれず活動の制限は受けたものの島内の行けるところはほとんど行き尽くしたつもりである。

○採集リスト

## 真菌門 EUMYCOTA

### 子囊菌亜門 ASCOMYCOTINA

#### チャワンタケ目 PEZIZALES

クロチャワンタケ科 Sarcosomataceae

1. オオゴムタケ *Galiella celebica*

#### クロサイワイタケ目 XYLARIALES

クロサイワイタケ科 Xylariaceae

2. マメザヤタケ *Xylaria polymorpha*

### 担子菌亜門 BASIDIOMYCOTINA

#### キクラゲ目 AURICULARIALES

キクラゲ科 Auriculariaceae

3. アラゲキクラゲ *Auricularia polytricha*

#### ヒダナシタケ目 APHYLLOPHORALES

ウロコタケ科 Stereaceae

4. ヒダウロコタケ *Cymatoderma lamellatum*

タコウキン科 Polyporaceae

5. アミスギタケ *Polyporus arcularius*

6. ヒイロタケ *Pycnoporus coccineus*

7. アラゲカワラタケ *Coriolus hirsutus*

#### ハラタケ目 AGARICALES

ヒラタケ科 Pleurotaceae

8. スエヒロタケ *Schizophyllum commune*

キシメジ科 Tricholomataceae

9. エセオリミキ *Collybia butyracea*

10. シロホウライタケ *Marasmiellus candidus*

11. ヌメリツバタケ *Oudemansiella mucida*

12. キュウバンタケ *Mycena stylobates*

ヒトヨタケ科 Coprinaceae

13. ジンガサタケ *Anellaria semiovata*

オキナタケ科 Bolbitiaceae

14. コブミノコガサタケ *Conocybe nodulosospora*

#### ホコリタケ目 LYCOPERDALES

ホコリタケ科 Lycoperdaceae

15. ヒメホコリタケ *Lycoperdon hiemale*

※ 同定は肉眼または実体顕微鏡で行ったので、染色や顕微鏡での観察は行っていない。

○感想・考察

今回の悪石島はすでに述べたとおりリュウキュウチクがおおいので、それらの林床に依存するキノコを探してみたが時期が違うのか何もみられなかった。その代わり狭い広葉樹の林床に依存するキノコがそれも様々な種類がみられた。そのうちキシメジ科およびヒメホコリタケは時期が鹿児島市内より少し早いようである。鹿児島市内と気温の差は冬以外それ程ないので降水量の差が要因かもしれないが、はっきりとした記録がないので断定はできない。また本島は畜産が盛んで肉牛が数多く放牧されていてそれらの糞より生えるジンガサタケが見つかった。しかし山羊の糞からはみられなかったのは不思議である。食べているものが両者でちがうのであろうか（山羊は昔飼育されていたものが野生化したものである）。なおコブミノコガサタケは、現在滋賀・大阪・大分でしか採集されていないので新しい採集地であると思われる。

参考文献

- 今関六也・本郷次雄（1987）原色日本菌類図鑑（Ⅰ）．保育社．  
今関六也・大谷吉雄・本郷次雄（1988）山溪カラー名鑑 日本のおきのこ．山と溪谷社．  
今関六也・本郷次雄（1989）原色日本菌類図鑑（Ⅱ）．保育社．

（なかむら としき）

# チョウ類の採集・観察記録

桐野 敦子

1992年3月17日から20日まで悪石島でチョウ類の採集と観察を行った。期間中の天候は極めて不安定で20日以外はほとんど太陽がのぞかなかったため、飛翔・訪花するチョウの姿があまり見られず、思うような活動をする事ができなかった。しかし、4科12種のチョウ類の採集・目撃例を得ているので、観察記録とともに報告する。

期間中の筆者の行動・観察の概要は以下の通り。

3月17日・曇天，16：00以降降風あり。

上村－林道大峯線－上村（12：10），上村（13：30）－浜－湯泊（14：50～16：30）－上村（16：50）

カラスアゲハ：上村～浜でカラスザンショウの新芽に腹端を付ける産卵行動が2・3度観察された。卵の確認はできなかった。

アサギマダラ：本種は季節移動をすることが実証されているが、吐噶喇列島からの春の移動のコースは知られておらず、手がかりを得るため、期間中、できるかぎり成虫にマーキングを行った。（マーク蝶のリストは別記する。）17日は食草の一つであるガガイモ科のツルモウリンカを上村～浜の道路脇に見つけたが幼虫は見られなかった。海からの強風が直接あたり、成虫がとどまることが困難であるためと思われる。

アカタテハ：林道大峯線でイラクサ科のカラムシの葉上（地上から約40cm）に営巣する幼虫がみられた。

ガ類：19：00～20：30にかけて公民館の灯火に飛来した10種を採集。未同定。

18日・雨のち曇天，強風。

上村（9：00）－浜－上村（11：30），上村－湯泊－上村

マダラチョウ科：湯泊の自然林の林床は下草が余り無く、ヒロウ・アカハダグス・ハマビワ・シャリンバイ・クロマツ等の樹木がほどよい間隔で生育しており、空間がある。林縁の比較的明るい林床にはツルモウリンカがはい、新芽が伸び始めているものも多い。ここでマダラチョウ科の4卵，4幼虫（約0.5cm－1個体・約2.0cm・2.2cm－各1個体）がいずれも新芽の葉上にみられた。また、昨年葉の裏面には、蛹殻があった。2卵が、アサギマダラ1ex. とリュウキュウアサギマダラ1♂であることが後の飼育により分かった。他はその場で同定できなかったが、アサギマダラとリュウキュウアサギマダラはこの時期、同じ食草を利用し、食べ分けもみられないようである。食草のツルモウリンカは林内にも生育しているが、林縁より暗いためか新芽の伸びは遅く、卵・幼虫ともにみられなかった。

リュウキュウアサギマダラ：14：00頃、湯泊の自然林で成虫を採集。御岳の麓にあたり海岸に近い。近くの谷沿いに成虫の越冬地があるのだろうか。

ガ類：17日夜とうってかわって、飛来がみられなかった。



19日・曇天，弱風。

上村（9：15）－浜（10：00）－湯泊－御岳（12：30～13：00）－浜（14：30）－上村

アサギマダラ：浜と浜から御岳へ登る途中の2ヶ所で本種の成虫が10頭前後たまっているのが見られた。小雨がまじる時にも見られ、キブシ科のナンバンキブシ（花は淡黄色）に吸蜜に訪れるほか、樹間を緩やかに飛翔しリュウキュウチクで羽を閉じて休む姿も見られた。どちらも涸れ沢のような場所で標高は50m付近と100～150m付近にあたり、海からの風を直接受ける場所ではなさそうである。♂と♀の割合はマークのために捕獲できた個体では1：1であったが、正確には確認できなかった。捕獲した個体は全て新鮮であった。

20日・曇天のち晴れ。

上村－湯泊－やすら浜港

（アサギマダラ・マーク蝶リスト）

期間中，♂10頭，♀15頭の計25頭にマークし，放した。マーク蝶の記号・ナンバーは鹿児島昆虫同好会に報告したが，各個体の詳細なデータは以下の通り。この他にデータには個体の鮮度も調べる必要がある。その後のマーク蝶の消息は不明である。

アルファベットAは桐野，Bは米沢がマークしたものである。筆者の場合，記号「KA A」は両前翅表に，ナンバーは両後翅表に油性のマジックペンで記した。

日	♂♀	前翅長 cm	記号・No.	マーク地	日	♂♀	前翅長 cm	記号・No.	マーク地
17	♀	4.9	KA A 001	上村	20	♀	5.4	KA A 012	浜
	♂	5.2	KA A 002	上村		♀	5.4	KA A 013	浜
	♀	5.7	KA A 003	林道大峯線		♂	5.4	KA A 014	浜
	♀	6.0	KA A 004	林道大峯線		♀	5.3	KA A 015	浜
	♂	5.2	KA A 005	林道大峯線		♂	5.5	KA A 016	浜
	♀	5.8	KA A 006	湯泊自然林		♀	5.8	KA A 017	浜
	♂		KA B 001	浜		♂	5.4	KA A 018	浜
	♀		KA B 002	浜		♂		KA B 005	浜
	♀		KA B 003	浜		♂		KA B 006	浜
	♀		KA B 004	浜～湯泊		♀		KA B 007	浜
19	♀	5.0	KA A 007	浜	「KA」：Kagoshima Prefecture Akusekijima アサギマダラのマーキングについては鹿児島昆虫同好会の 田中 洋 氏にご教示，ご示唆をいただきました。お礼申し上げます。				
	♀	4.6	KA A 008	浜～御岳					
	♀	6.2	KA A 009	浜～御岳					
	♂	5.3	KA A 010	浜～御岳					
	♂	4.9	KA A 011	浜～御岳					

# 鱗翅目 LEPIDOPTERA

## チョウ亜目

### I アゲハチョウ科 Papilionidae

1. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*  
浜：(1♂, 20.Ⅲ, 桐野)
2. モンキアゲハ *Papilio helenus*  
浜：(目撃1ex., 17.Ⅲ, 桐野)  
浜～湯泊：(1♀, 18.Ⅲ, 米沢) (目撃1ex., 19.Ⅲ, 桐野)  
(1♂, 20.Ⅲ, 米沢)  
湯泊：(1♂, 18.Ⅲ, 桐野)
3. カラスアゲハ *Papilio bianor*  
浜：(1♂, 17.Ⅲ, 米沢)  
浜～上村：(目撃1ex., 17.Ⅲ, 桐野)  
浜～湯泊：(1♂, 17.Ⅲ, 米沢) (2♂♂, 20.Ⅲ, 米沢)

### II シジミチョウ科 Lycaenidae

4. アマミウラナシジミ *Nacaduba kurava*  
浜：(1♀, 19.Ⅲ, 米沢)
5. ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha*  
林道大峯線：(目撃1ex., 17.Ⅲ, 米沢)  
浜～湯泊：(目撃1ex., 19.Ⅲ, 桐野) (目撃多数, 20.Ⅲ, 米沢)

### III マダラチョウ科 Danaidae

6. アサギマダラ *Parantica sita*  
上村：(目撃1ex., 18.Ⅲ, 桐野)  
林道大峯線：(目撃2exs., 17.Ⅲ, 桐野)  
浜：(目撃1ex., 17.Ⅲ, 桐野) (目撃1♂, 18.Ⅲ, 桐野)  
浜～上村：(目撃1ex., 17.Ⅲ, 桐野)  
浜～湯泊：(1♀, 17.Ⅲ, 米沢)  
湯泊：(卵目撃4exs. 幼虫目撃2exs., 18.Ⅲ, 桐野)
7. リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis (Radena) similis*  
浜：(1♂1♀, 20.Ⅲ, 米沢)  
湯泊：(1♂, 18.Ⅲ, 桐野) (幼虫目撃2exs., 18.Ⅲ, 桐野)

### IV タテハチョウ科 Nymphalidae

8. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*  
浜～湯泊：(1♂, 17.Ⅲ, 米沢)
9. ルリタテハ *Kaniska canace*  
湯泊：(目撃1ex., 17.Ⅲ, 米沢)
10. ヒメアカタテハ *Cynthia cardui*  
浜～湯泊：(1ex., 20.Ⅲ, 桐野)

11. アカタテハ *Vanessa indica*

林道大峯線：（幼虫目撃1ex., 17.Ⅲ, 桐野）

V セセリチョウ科 HesperIIDae

12. イチモンジセセリ *Parnara guttata*

浜：（1ex., 20.Ⅲ, 桐野）

以上、3月17日～3月20日までの悪石島における採集、目撃記録である。  
学名及び種の配列は全て「原色日本蝶類図鑑」（保育社）によった。

参考文献

川副昭人・若林守男（1985）原色日本蝶類図鑑、保育社。

（きりの あつこ）

## LEBEN 第22号の訂正

本誌第22号、1991年高隈春合宿の報告において鱗翅目のリストの一部に誤りがあったので訂正する。P.13にある下記のデータは以下のように査定された。

誤同定の可能性を指摘していただいた 白水 隆 博士に厚くお礼申し上げます。

V ジャノメチョウ科 Satyridae

16. クロヒカゲモドキ *Lethe marginalis* Motschulsky

（1ex., 3.V, 金井）

は再同定の結果、クロヒカゲ *Lethe diana* Butler と査定された。

# 甲虫の採集記録

米沢 俊彦

1992年3月16日から3月21日まで生物研究会の春旅行で吐噶喇列島の悪石島を訪れた。  
筆者らは島内に於て甲虫の採集を行ったので以下に報告する。

## 鞘 翅 目 COLEOPTERA

### I オサムシ科 Carabidae

1. マルガタゴミムシ属の1種 *Amara* sp.  
上村：(1ex., 17.Ⅲ, 米沢)
2. アオゴミムシ亜科の1種 *Callistinae* sp.  
湯泊：(1ex., 18.Ⅲ, 中村)  
スジアオゴミムシ *Haplochlaenius costiger* に近縁なものと考えられる。ピロウの倒木から得られた。

### II ゲンゴロウ科 Dytiscidae

3. ツブゲンゴロウ属の1種 *Laccophilus* sp.  
湯泊：(9exs., 18.Ⅲ, 米沢)

### III ハネカクシ科 Staphylinidae auct.

4. アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes*  
湯泊：(1ex., 18.Ⅲ, 米沢)

### IV クワガタムシ科 Lucanidae

5. ルイスツノヒョウタンクワガタ *Nigidius lewisi*  
大峯：(3exs., 19.Ⅲ, 米沢)
6. マメクワガタ *Figulus punctatus*  
浜～上村：(1ex., 19.Ⅲ, 米沢)
7. トカラコクワガタ *Dorcus rectus kobayashii*  
大峯：(1♀, 19.Ⅲ, 米沢)
8. トカラネブトクワガタ *Aegus laevicollis abei*  
湯泊：(1♂, 17.Ⅲ, 桐野) (1♂3♀♀, 17.Ⅲ, 米沢)

### V コガネムシ科 Scarabaeidae

9. クロツツマグソコガネ *Saprosites japonicus*  
林道大峯線：(3exs., 17.Ⅲ, 米沢)

### VI コメツキムシ科 Elateridae

10. ナガマメコメツキ *Yukoana elongata*  
林道大峯線：(1ex., 17.Ⅲ, 米沢)

### VII ジョウカイボン科 Cantharidae

11. チビジョウカイ亜科の1種 *Malthininae* sp.  
湯泊：(2exs., 19.Ⅲ, 米沢)  
クロスジツマキジョウカイ *Malthinus mucoreus* に似る。
12. ジョウカイボン科の1種 *Cantharidae* sp.  
上村：(4exs., 17.Ⅲ, 米沢)  
湯泊：(3exs., 19.Ⅲ, 米沢)

- Ⅷ ジョウカイモドキ科 Melyridae
13. ムナキヒメジョウカイモドキ *Attalus niponensis*  
湯泊：(2exs., 19.Ⅲ, 米沢)
- Ⅸ ネスイムシ科 Rhizophagidae
14. コバケデオネスイ *Mimemodes japonus*  
浜～御岳：(1ex., 19.Ⅲ, 米沢)
- X コメツキモドキ科 Languriidae
15. ニホンホホヒロコメツキモドキ *Dauledaya bucculenta*  
上村：(1♂, 17.Ⅲ, 米沢)
- X I テントウムシ科 Coccinellidae
16. ナミテントウ属の1種 *Harmonia* sp.  
上村：(1ex., 17.Ⅲ, 米沢)
- X II コキノコムシ科 Mycetophagidae
17. ウスモンヒメキノコムシ *Litargus lewisi*  
浜～御岳：(1ex., 19.Ⅲ, 米沢)
- X III ニセクビボソムシ科 Aderidae
18. ヒメオビニセクビボソムシ *Pseudoloterus cinctus*  
湯泊：(1ex., 19.Ⅲ, 米沢)
- X IV ハムシダマシ科 Lagriidae
19. ヒゲブトハムシダマシ *Luprops orientalis*  
上村：(3exs., 17.Ⅲ, 米沢)
- X V クチキムシ科 Alleculidae
20. オオクチキムシ *Allecula fuliginosa*  
林道大峯線：(3exs., 17.Ⅲ, 米沢)
- X VI ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae
21. トカラヒサゴゴミムシダマシ *Paramisolampidius tokarensis*  
林道大峯線：(1ex., 17.Ⅲ, 米沢)  
大峯：(1ex., 19.Ⅲ, 米沢)
- X VII ハムシ科 Chrysomelidae auct.
22. ウリハムシ *Aulacophora femoralis*  
浜～御岳：(1ex., 19.Ⅲ, 米沢)
- X VIII ソウムシ科 Curculionidae
23. クワソウムシ *Episomus mundus*  
浜～上村：(1ex., 19.Ⅲ, 米沢)
24. ニセマツノシラホシソウムシ *Shirahoshizo rufescens*  
上村：(1ex., 17.Ⅲ, 米沢)
25. キクイソウムシ亜科の1種 *Cossoninae* sp.  
林道大峯線：(1ex., 17.Ⅲ, 米沢)  
ワシバナヒメキクイソウムシ *Phloeophagosoma curvirostre* に似る。

#### 参考文献

- 森本桂・他(1984～1986)原色日本甲虫図鑑(Ⅰ)～(Ⅳ). 保育社.  
岡島秀治・若林守男(1988)検索入門クワガタムシ. 保育社.

(よねざわ としひと)

# 1992年沖永良部島夏合宿の報告

## ○はじめに

我々は1992年7月12日から7月22日まで沖永良部島において生物研究会夏合宿を行った。以下植物、魚類、チョウ類、甲虫類、キノコに関する観察、採集の報告をする。尚、宿泊その他に関し、お世話になった知名町瀬利覚区長である吉田義一さん、瀬利覚消防団長である森武勝さん、森タクシーの先間栄照さんをはじめ一同の皆様、その他地元の方々に紙面を借りて心から厚くお礼申し上げる。

## ○メンバー

小野雅幸、牛ノ濱孝、桐野敦子、濱田しおり、中村理樹、米沢俊彦、米山章一、大迫正規、坂口志保、永田武志、藤田寛、東幸希、光永佳奈枝、倉園憲、田川智子、姫野尊雄、溝口信彦。

\*溝口氏は本会のOBである。

## ○日程、コース

7月12日(日)：部室集合(16:30) 乗 鹿兒島新港(18:00) 乗 [クイーンコーラル7]

13日(月)：和泊港(12:00) 乗 知名町瀬利覚消防センター(13:00)

↓ 瀬利覚区を拠点にして採集・観察を行う。

21日(火)：和泊港(12:40) 乗 [波之上丸]

22日(水)：鹿兒島新港(8:30) 乗 部室到着(9:00)

\*コースの中で乗は車、乗はフェリーを表す。

## ○天候

今回の合宿は天候に恵まれ、日差しの強さに皆苦しむほどであった。以下は国頭岬のものであるが、大山では時に小雨が降るなど場所により天気は多少異なった。

	13	14	15	16	17	18	19	20	21
天気(6~18時)	☆	☆	☆	☆/☉	☆	☆	☆	☆	☆
(18~6時)	☆	☆ ☉	☆	☉/☆	☆	☆	☆	☆	☆
平均雲量(10分)	5.7	8.3	5.3	9.3	3.3	0.7	0.0	1.3	2.3
平均気温(℃)	26.3	26.2	27.0	27.9	28.2	27.9	28.2	28.7	28.7
降水量(mm)	—	—	0	—	0	—	—	—	—

(0は0.5mm未満)

\*鹿兒島地方气象台による鹿兒島県農業気象月報平成4年7月によった。

## ○位置・地形など

沖永良部島は北緯27°3', 東経128°37'を通る面積94.5km<sup>2</sup>, 大山(246m)を最高標高とする低平な島で, 島全体が隆起珊瑚礁からなる。

主として粘板岩, 花崗岩からなる基盤岩が大山山頂付近や島の長軸に沿う小高い部分に露出しているが周囲は石灰岩の琉球層群で覆われる。

島内にはカルスト地形がいたる所で見られ, 大山の中腹から麓にかけてはドリーネが無数に発達し, 昇竜洞, 水蓮洞, 永良部洞などの鍾乳洞は規模が大きく200ほど存在する。

年降水量は2076.5mm, 気候は亜熱帯気候であるため最寒月の1月でも平均気温は15°Cを下らず年平均気温も22.2°Cと高い。陸水は乏しく目につく川は余多川, 奥川そして内喜名浜に注ぐ川程度であるが, 地下水は豊富である。海岸は防潮・砂林としてのモクマオウが目につくが北端一帯の海岸は隆起珊瑚礁によって取り巻かれており, その内側に砂が堆積して砂丘植生が発達している。西北端の田皆岬は隆起珊瑚礁の岩地植生が発達し, 北海岸に位置する畦布一体にはソテツ群落が発達する。大山には沖永良部島にだけ認められるスタジイ林(アオバナハイノキースタジイ群集)があり, 山頂帯は自衛隊の施設があるが, それを除く山頂部一帯は貴重な植物の分布を含む自然植生として貴重である。

土地利用としては畑地が広い面積をしめ花卉, サトウキビ, タバコなどの栽培が行われている。又, 以前各地に散在していた水田は現在ほとんど見られない。

交通はバスがほぼ島内全域を走っているので特に問題はないと思われる。

以下に沖永良部島の位置, 採集地などを図示した。本文と参照して利用して頂きたい。尚, 主な活動場所は次の通りである。

赤嶺(あかみね) 芦清良(あしきょうら) 余多(あまた) 奥川(おくがわ)  
大津勤(おおつかん) 大山(おおやま) 国頭岬(くにがみみさき)  
黒貫(くろぬき) 後蘭(ごらん) 越山(こしやま) 昇竜洞(しょうりゅうどう)  
水蓮洞(すいれんどう) 瀬利覚(せりかく) 田皆(たみな) 知名(ちな)  
徳時(とくとき) 内喜名浜(うちきなはま) 屋子母(やこも)

(姫野)

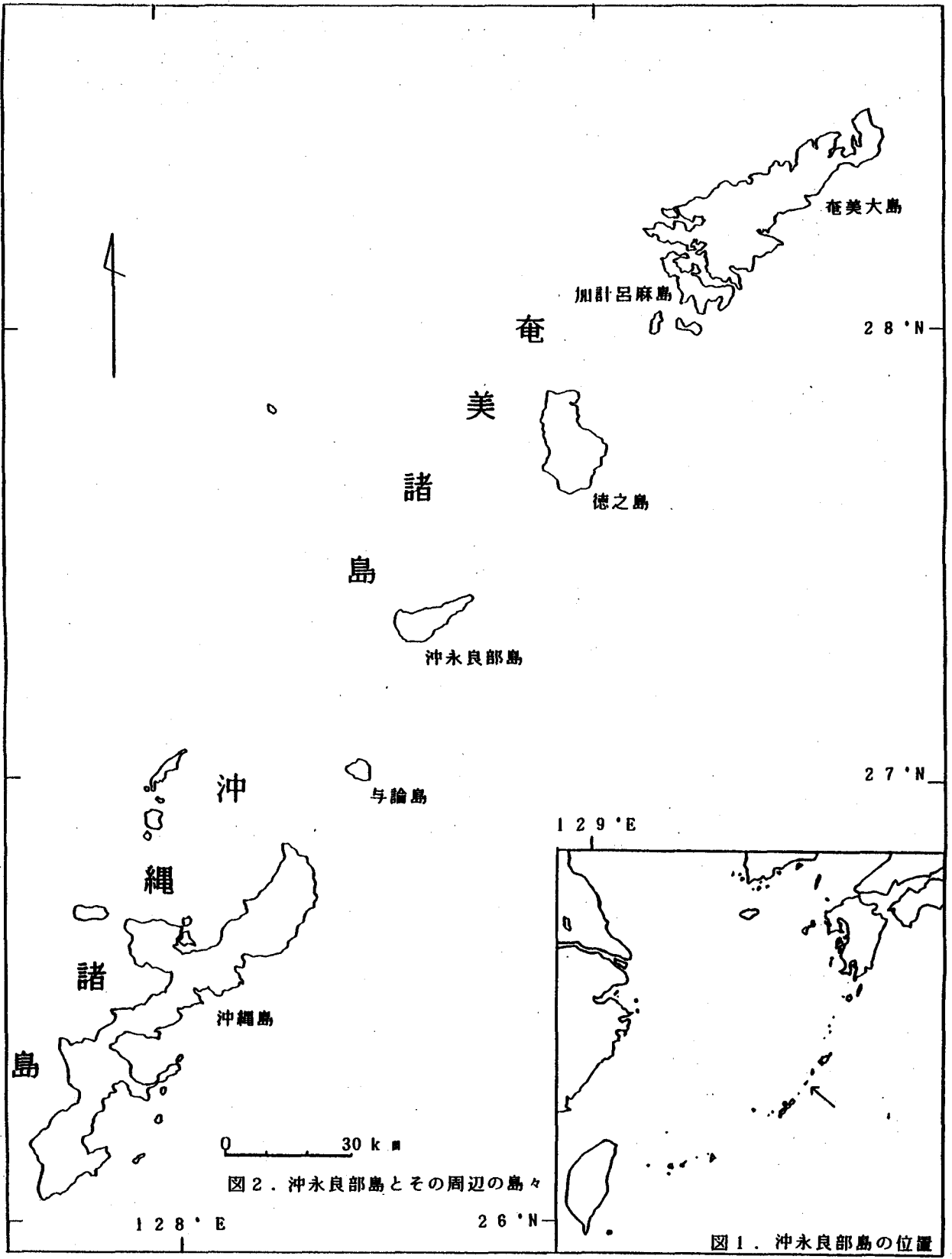


図 2 . 沖永良部島とその周辺の島々

図 1 . 沖永良部島的位置



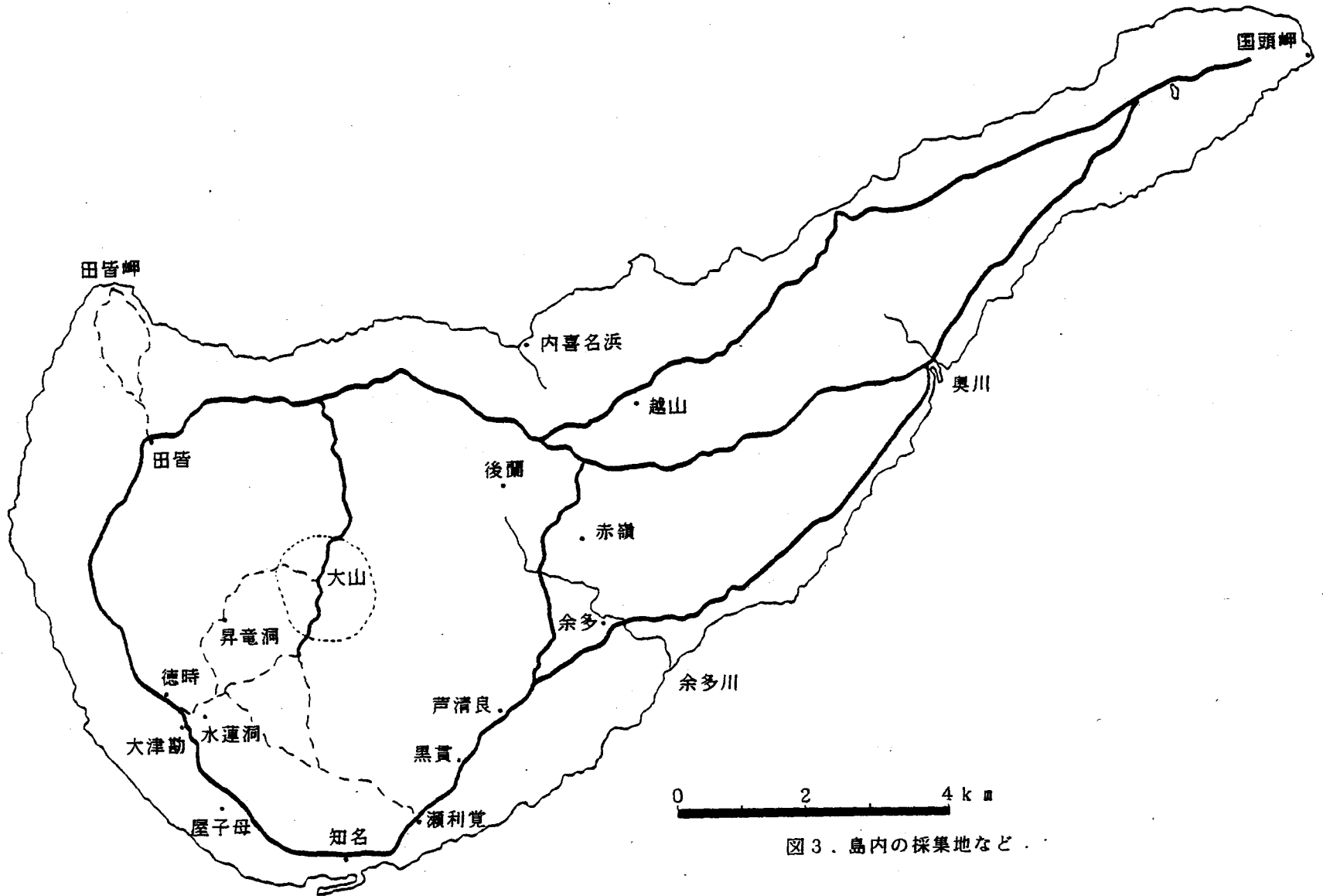


図3. 島内の採集地など

# 淡水魚の採集記録

米沢 俊彦

## ○はじめに

1992年7月12日から7月22日まで生物研究会の夏合宿で沖永良部島を訪れた。筆者は同島内における淡水魚の調査を行ったので以下に報告する。

## ○概要

沖永良部島は透水性の大きい石灰岩の地層に覆われているため地表流が発達しておらず、地下水系がよく発達している。暗川（クラゴウ：現地ではゴウまたはハウと呼ぶ）というのは地下水系が海岸近くで一度地表に現れているもので、大山の周辺の集落で普通に見られ、地元の人々にとって洗濯や水浴の場、あるいは飲料水の水源として古くから生活に密着したものである。我々も合宿中は瀬利覚の暗川で毎日汗を流した。

余多川は同島で最大の河川（流程約4.5km）である。昭和43年国土地理院発行の5万分の1地形図によると流域には水田が広がっていたようであるが、現在はサトウキビの栽培が行われていて水田は全く見られなかった。川そのものも改修が行われたようでコンクリートの護岸が目立った。水量は豊かで水もかなり澄んでいたが、場所によっては赤土が厚く堆積した所もあった。河口は高さ30m程の断崖部に位置し、地元の話によると道路の下を伏流しながらいくつかの滝を経て海に流れ込んでいるとのことであり、結局河口へは近づけなかった。

赤嶺は越山の麓に位置しており、湧水が豊富で小規模の湿地があり田芋と呼ばれるサトイモ科の作物が栽培されていた。

## ○調査結果

今回採集および視認された魚類は7種であった。以下にリストを記す。なお、調査期間は7月13日から7月21日である。

1. オオウナギ *Anguilla marmorata* Quoy et Gaimard  
余多川
2. コイ *Cyprinus carpio* Linnaeus  
余多川
3. カダヤシ *Gambusia affinis* (Baird et Girard)  
瀬利覚の暗川, 余多川
4. タイワンキンギョ *Macropodus opercularis* (Linnaeus)  
赤嶺
5. チカダイ *Tilapia nilotica* (Linnaeus)  
余多川
6. ヨシノボリ属の1種 *Rhinogobius* sp.  
屋子母の暗川
7. ボウズハゼ *Sicyopterus japonicus* (Tanaka)  
余多川

## ○感想

今回の合宿中に沖永良部島で生息が確認された淡水魚は上記のリストに示した通りである。この他に小川(1937)はギンブナ、ドジョウを報告しているが今回の調査では得られなかった。おそらく水田の減少や外来種の移入による影響が大きいものと思われる。特にチカダイは以前余多川で養殖が試みられたとのことであったが、現在は野放し状態であり個体数もかなり多かった。

タイワンキンギョは自然分布説と人為分布説の2つの説があり明確な結論には至っていないようである。沖永良部島の個体群は島内のかなり限定された場所のみ生息しており、個体数は少なかった。筆者は成魚5尾持ち帰り、この内の2尾(1♂1♀)を現在(1993年2月6日)飼育・観察中である。

両側回遊性のハゼ科魚類はヨシノボリ属の1種とボウズハゼが見られたのみであった。ヨシノボリは全長20mmほどの幼魚が1個体観察されただけで、種まで同定できなかった。ちなみに、ヨシノボリの出現した屋子母の暗川ではトゲナシヌマエビ、ミナミテナガエビ、ヤマトテナガエビが多く見られたが、河口部は濁水時には伏流しているらしく川沿いに下流に歩いて行く途中で川を見失った。

結論として、沖永良部島の淡水魚類相は筆者が1年時に訪れた西表島や2年時に訪れた奄美大島の淡水魚類相と比較してかなり単純であると言える。川の流程が短いことに加え、流域に変化が乏しいことが大きな要因と考えられる。河口にマングローブ地帯や干潟が発達している河川における淡水魚の種構成は汽水性淡水魚や偶来性淡水魚といった周縁性淡水魚の占める比率が高い。このような汽水域をもたないことが沖永良部島の淡水魚の種数を制限しているのではないかと思った。

## 参考文献

川那部浩哉・水野信彦編(1989)日本の淡水魚。山と溪谷社。

瀬能 宏(1985)沖縄の川魚滅亡の危機。淡水魚, (11): 73-78。淡水魚保護協会。

益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編(1984)日本産魚類大図鑑。東海大学出版会。

小川一男(1937)地理的分布から見た鹿児島県の淡水魚。広島文理科大学・高等師範学校博物学会誌, (5): 11-27。

(よねざわ としひこ)

# キノコの採集記録

中村 理樹

## ○はじめに

生物研究会の夏合宿は7月の中旬から8月の初旬の間で南の島に行くことが多い。この時期、今までの南の島では梅雨もとっくの昔に過ぎて林床はカラカラに乾いてるうえに、ハブのいる場所であったため一人での活動も制限されてきたため採集品の数も少なかった。また採れたキノコも今までの私であれば同定が困難であるものがほとんどを占めていた（今でもたいしたことはない）。しかし沖永良部は場所によっては湧き水も出ていて山頂付近にも沢や湿地帯があり湿った林床もあった。しかも今回は大学生生活最後の夏合宿になるかもしれないので、初めて計画を立てて採集を行った。初めての試みでいろいろと欠点があると思うがここにその報告をする。

## ○方法

夏合宿はフィールドに滞在する期間が短い。今回は9日間であったのでフィールドを一ヶ所に絞ることにした。まず一日目は時間も余りないので宿舍の周辺で採集を行うが、二日目にはバイクを借りて島内のめばしいフィールドを回り目的のフィールドを一ヶ所決める。今回は、宿泊地からの近さ・林床の具合・採集のしやすさなどからその場所を大山の頂上を中心とした半径1.5kmの範囲内にして、そこをできるかぎり見て回り採集することにした（但し頂上には自衛隊の基地がありはいれないところも多い）。キノコを見つけても形が保てそうにないものはすぐには採らず、なるべく細かい性状まで記録しておく。採ったキノコはなるべくその日のうちに同定を行い、できないものは鹿児島に帰ってから同定する。

以上の記録をもとに考察を立てる。

## ○採集リスト

### 真菌門 EUMYCOTA

#### 担子菌亜門 BASIDIOMYCOTINA

##### キクラゲ目 AURICULARIALES

##### キクラゲ科 Auriculariaceae

1. アラゲキクラゲ *Auricularia polytricha*

2. ヒダキクラゲ *Auricularia mesenterica*

##### ヒダナシタケ目 APHYLLOPHORALES

##### シロソウメンタケ科 Clavariaceae

3. ナギナタタケ *Clavulinopsis fusiformis*

##### ウロコタケ科 Stereaceae

4. チャウロコタケ *Stereum ostrea*

5. オオカタウロコタケ *Xylobolus annosus*

6. モミジウロコタケ *Xylobolus spectabilis*

##### 多孔菌科 Polyporaceae

7. ハチノスタケ *Polyporus alveolarius*

8. スジウチワタケモドキ *Polyporus emericii*

9. ウチワタケ *Microporus flabelliformis*  
 10. ヒイロタケ *Pycnoporus coccineus*  
     タバウロコタケ科 Hymenochaetaceae  
 11. ネンドタケ *Phellinus gilvus*  
     ハラタケ目 AGARICALES  
     ヌメリガサ科 Hygrophoraceae  
 12. ミズゴケノハナ *Hygrocybe coccineocrenata*  
     キシメジ科 Tricholomataceae  
 13. コザラミノシメジ *Melanoleuca melaleuca*  
 14. ツエタケ *Oudemansiella radicata*  
     イグチ科 Boletaceae  
 15. クロアザアワタケ *Xerocomus nigromaculatus*  
     ベニタケ科 Russulaceae  
 16. シロハツモドキ *Russula japonica*  
 17. カワリハツ *Russula cyanoxantha*

※ 同定は肉眼または実体顕微鏡で行ったので、染色や顕微鏡での観察は行っていない。  
 リストにあげたものは、はっきりと同定できたものだけである。  
 又、シロハツモドキとナギナタタケは越山にて採集されたものである。

#### ○考察

今回最も多く見られたキノコはカワリハツである。その採集地は大山の頂上付近の東半分の斜面であった。その林床には松の葉が積もっていてカワリハツはそれを押し上げる形で菌輪を作って生えていた。しかし松の葉が目立っていたのは時期的なものと松の葉が分解されにくいことによると思われる。よってカワリハツやそのほかのブナ科の林床に依存するキノコは大山の頂上の優占種であるスダジイの林床に依存していたと思われる。なぜカワリハツが東半分からしか見られなかったのかは分からないが、一つの山の中での同じ林床でもキノコが生える場所に片寄りがみられるという良い例であろう。

※ 大山の植物相については他の会員の調査結果を参考にした。

#### ○感想

今回の沖永良部で1番困ったのは15cmにもなる大きなヤマナメクジたちであった。彼等は大事な標本を手当たり次第に食べてしまうし、知らずに手を伸ばすとつい触ってしまい思わず叫んでしまうなど大変悩まされた。しかしハブがいない島はやはり採集に勝手が効き、とても楽しめた。

南の島のキノコ相はまだあまり詳しく調べられてないようで、新種が見つかる可能性も多く又既知種についてもその分布範囲が新しく見つかるかもしれない。そのようなことを考えながらこれからも機会があれば南の島でキノコ採りをしたいものである。

#### 参考文献

- 今関六也・本郷次雄(1987)原色日本菌類図鑑(Ⅰ)。保育社。  
 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄(1988)山溪カラー名鑑 日本のきのこ。山と溪谷社。  
 今関六也・本郷次雄(1989)原色日本菌類図鑑(Ⅱ)。保育社。

(なかむら としき)

# 蘚苔類の採集記録

光永 佳奈枝

今回の合宿では、大山(246m)と越山(188m)が目立つほかは、地形的にも気候的にもあまり期待していなかった。また私自身がコケ植物を勉強し始めて3ヶ月も立たないということで素人なりに見つける程度でしかなかった。しかし今思い返して見ると、カラカラの天気の中私が思っていた以上に採集・観察ができた。水田などの湿地を探して歩いたのだが水田は赤嶺に少し残るほかはあまり見当らなかった。ただ赤嶺には最終日に行ったため、思うようにコケの採集が出来なかったのは心残りである。

鍾乳洞の多い島であるためか、越山や大山の林道に入ると日なたの乾燥した土とは違い土壁や木の根にコケが生息するには十分な湿り気を持っていた。なかなか面白いフィールドを見ることができたと思う。また屋子母では珍種1種を採集することができた。

今回は7月14日から7月20日までの沖永良部島において採集した蘚苔類のリストを載せることにする。採集地の標高は記録していなかったため不明。同定は数種私が行なったがまだ知識が十分では無いため、東京大学平岡研究所の秋山弘之先生にお願いした。紙面を借りてお礼申し上げます。

## 蘚 綱 MUSCI

### I ホウオウゴケ科

1. サクラジマホウオウゴケ *Fissidens incrassatus*  
越山林道：(16日, 日陰, やや湿る, 石上)  
大山林道：(14日, 茶土上)
2. ホウオウゴケ *Fissidens japonicus*  
赤嶺：(20日, 日陰, 湿地, 水田の石上)
3. キャラボクゴケ *Fissidens taxifolius*  
大山林道：(20日, 日陰, やや湿る, 赤土)
4. ニセサクラジマホウオウゴケ *Fissidens subuugustatus*  
屋子母：(半日陰, やや湿る, 土上)  
この種は伊豆七島と琉球でしか見つかっていない珍種

### II シッポゴケ科

5. ススキゴケ属の一種 *Dicranella* sp.  
越山入口：(16日, 半日陰, 湿る, 赤土)
6. ススキゴケ *Dicranella heteromalla*  
越山入口：(16日, 半日陰, 湿る, 石上) 孢子体有り

### III シラガゴケ科

7. ホソバオキナゴケ *Leucobryum neilgherrense*  
大山林道：(20日, 日陰, 乾燥, 樹木の根元)

### IV センボンゴケ科

8. ツチノウエノコゴケ *Weissia controversa*  
大山道路：(14日, 半日陰, 半湿地, 土上)  
屋子母：(17日)

9. ネジクチゴケ *Barbula unguiculata*  
 大山：(20日, 日当り, 乾燥, 石上)  
 水蓮洞：(19日)  
 Vカサゴケ科
10. ヘチマゴケ属の一種 *Pohlia* sp.  
 屋子母：(17日, 半日陰, やや湿る, 石垣)  
 赤嶺：(20日, 川沿いの土手)
11. ナガハリガネゴケ *Bryum coronatum*  
 知名町：(13日, 日当り, 乾燥, 石上)  
 大山植物園：(20日, 半日陰, 乾燥, 土上)  
 VIタマゴケ科
12. オオサワゴケ *Philonotis turneriana*  
 大山道路：(14日, 日陰, 少し湿る, 層状の土)  
 採集したのはまだ子供  
 VIIタチヒダゴケ科
13. ミノゴケ *Macromitrium japonicum*  
 越山林道：(16日, 半日陰, やや湿る)  
 越山入口：(16日, ヤシの木の根)  
 VIIIムジナゴケ科
14. イワノコギリゴケ *Duthiella wallichii*  
 昇竜洞：(15日, 半日陰, 湿地, 石上)  
 IXヒラゴケ科
15. ヤマトヒラゴケ *Homalia japonica*  
 徳時：(17日, 半日陰, 少し湿る)  
 Xウスグロゴケ科
16. ウスグロゴケ属の一種 *Leskea* sp.  
 赤嶺：(20日, 半日陰, 湿地, 木)  
 XIシノブゴケ科
17. コバノイトゴケ *Haplohymenium pseudo-triste*  
 越山林道：(20日, 日陰, 乾燥, 樹木)
18. ハリゴケ *Claopodium aciculatum*  
 徳時：(17, 18日, 半日陰, 少し湿る, 石垣)  
 越山林道：(16日, 半日陰, 少し湿る, 土上)
19. チャボシノブゴケ *Thuidium bipinnatum*  
 水蓮洞：(19日, 半日陰, やや湿地, 土上)  
 XIIアオギヌゴケ科
20. コカヤゴケ *Rhynchostegium pallidifolium*  
 昇竜洞：(15日, 土上)  
 水蓮洞入口：(19日, 日陰, 湿地, 石上)  
 これは小型のものを採集  
 XIIIサナダゴケ科
21. ヒナサナダゴケ *Vesicularia flaccida*

越山林道：(16日, 日当り, 湿地, 土上)  
水蓮洞出口：(19日, 半日陰, 少し湿る, 朽ち木)  
大山道路：(20日, 石上の赤土)  
赤嶺：(20日, 日陰, 乾燥, 石上)

22. キャラハゴケ *Taxiphyllum taxirameum*  
大津勘：(18日, 半日陰, やや湿る, 石垣)
23. アカイチイゴケ属の一種 *Isopterygium* sp.  
越山林道：(16日, 日陰, 乾燥, 朽ち木)
24. アカイチイゴケ *Isopterygium pohliaecarpum*  
大山林道：(14日, 半日陰, 少し湿る, 茶土)
25. シロイチイゴケ *Isopterygium albescens*  
越山林道：(16日, 日陰, 乾燥, 松の木の根)

## 苔 綱 HEPATICAE

### XIV ツキヌキゴケ科

26. トサホラゴケモドキ *Calypogeia tosana*  
大山林道：(14日, 半日陰, 少し湿る, 赤土)  
越山林道：(16日, 湿地, 土上)

### XV ツボミゴケ科

27. ツボミゴケ属の一種 *Jungermannia* sp.  
越山林道：(16日, 半日陰, やや湿る, 石垣)  
越山林道：(16日, 半日陰, 湿る, 赤土)

### XVI ウロコゴケ科

28. ウロコゴケ *Heteroscyphus argutus*  
大山林道：(14日, 半日陰, やや湿る)

### XVII クサリゴケ科

29. カマハコミミゴケ *Lejeunea discreta*  
知名町：(20日, 日陰, 乾燥, 樹木)

### XVIII クラマゴケモドキ科

30. クラマゴケモドキ属の一種 *Porella* sp.  
大山林道：(20日, 日陰, やや湿る, 樹木)

## ツノゴケ 綱 ANTHOCEROTAE

### XIX ツノゴケ科

31. ニワツノゴケ *Phaeoceros laevis*  
大山林道：(17日, 半日陰, 少し湿る, 茶土)  
大山植物園：(20日, 半日陰, 少し湿る, 土上)
32. ツノゴケ属の一種 *Anthoceros* sp.  
昇竜洞：(15日, 半日陰, 湿る)  
大山植物園：(17日, 半日陰, 湿地, 土上)

### 参考文献

岩月善之介・水谷正美 (1972) 原色日本藓苔類図鑑. 保育社.

(みつなが かなえ)



# 甲虫の採集記録

永田 武志・藤田 寛・姫野 尊雄

我々は、1992年7月13日から20日までの8日間、主に「2.5万分の1地形図沖永良部島西部」で表される地域で甲虫の採集を行ったが、32科にわたる約120種の甲虫を得ることができた。（但し、リストに示してあるのは30科115種である）。

採集地は、採集に費やした時間の多い順に大山、瀬利覚～大山、瀬利覚、屋子母、大津勘、田皆～田皆岬、赤嶺、知名、大山～大津勘、内喜名浜である。

大山には沖永良部島唯一のスダジイ林（スダジイが優先種で、ヒサカキサザンカやアオバナハイノキ、ハゼノキ、タイミンタチバナなどが生えている）が残っているが、大部分はリュウキュウマツ群落となっている。ここでは、昼はビーティングや朽ち木くずしを夜は林内や林縁・自衛隊基地周辺などで灯火採集を行った。クワガタムシ科やカミキリムシ科のほとんどはここで得られたものである。枯れ枝や枯れ蔓のビーティングではゴミムシ科やゴミムシダマシ科を期待していたが、思っていた程は採れなかった。

瀬利覚では人家や畑の回りでビーティングをしたり灯火の見回りを行ったりした。ホルトノキからはイシガキシロテンハナムグリやヨツスジトラカミキリ、フタオビミドリトラカミキリ（いずれも訪花していたものである）、ヒラヤマメナガゾウムシが得られた。

瀬利覚～大山では道路沿いすなわち林縁部（アカメガシワや、シマグワ、ヤブニッケイ、サルカケミカン、オオバギ、チョウセンアサガオ、数種のつる植物などが生えている）で生葉や枯れ枝、枯れ葉、枯れ蔓などをビーティングした。シマグワからは擬死を装うオキナワクワゾウムシやオキナワキボシカミキリが普通に得られた。また、日中はリュウキュウツヤハナムグリやイシガキシロテンハナムグリ、オオシマルリタマムシなどが活発に飛び回っているのが観察された。

瀬利覚～昇竜洞ではホルトノキのビーティングによりリュウキュウヒメカミキリやケブトハナカミキリ、オキノエラブノコギリクワガタなどが得られた。ソウシジュ（橙黄色の花が咲いていた）の大木がかなり目に付いたが、特に何も採集されなかった。樹液が出ていたので何か訪れる虫がいるのかもしれない。

屋子母と大津勘では砂浜にて漂着木や流出木、ゴミなどの下からゴミムシの類が得られた。

田皆から田皆岬にかけてはサトウキビ畑沿い（ススキやアカメガシワ、シマグワ、アカギ、ヘクソカズラ、イケマの類、ノブドウの類、クサギ属の1種などが見られる）のビーティングをしたが、タテスジヒメジンガサハムシやサルハムシの類、オオフタホシテントウやダイダイテントウ、アトモンチビカミキリやアヤモンチビカミキリなどが普通に見られた。

赤嶺は唯一水田（タイモ栽培）のあるところであり、ゲンゴロウ科3種、ガムシ科3種が得られた。大山の沢と池で得られたミススマシ科2種と合わせても今回得られた水棲甲虫はわずかに8種である。数ヶ所だけでの採集ではあるのだが、沖永良部島においてこの10年ほどの間に水棲甲虫は種数・個体数両面においてかなり減少しているのでは？と思われてならない。現在の島の水田面積は10年前のその数パーセントもないし、自分が調べたため池（全ため池の1%にも及ばないが）では水棲甲虫は確認されなかった

からである。1981年7月13日から19日にかけて本会OBによりゲンゴロウ科9種、ガムシ科8種など20種近くの水棲甲虫が採集されているが、当時は余多川流域や後欄、新城をはじめ島内各地に水田が散在しており、これらの種が個体群を維持していくのに適当な環境であったと考えられる。なお、この時は大山の自衛隊基地の灯火でも数種採集されているが今回はここでは死骸さえも確認されていない。

大山～大津勤では主にピーティングを行ったが、大山～瀬利覚で採集されたものとはほぼ同じであった。

知名では灯火採集によりオオミイデラゴミムシやタイワンカブトムシ、シロアナアキゾウムシなどが、内喜名浜ではゴミムシタマシの1種が得られただけである。

ところで、本島では1980年代後半に初めてタイワンカブトムシが確認され、昨年などはその被害が問題になったようであるが、今回はほとんど見かけなかった。毎晩灯火採集を行った結果得られた成虫が2頭(死骸を含めると5, 6頭)であることからして我々が滞在中の本種の個体数(成虫)は田中ら(1992)の報告に照らし合わせるとやや少なかったと考えられる。

以下、リストを示す。

〔永田〕

I ハンミョウ科 Cicindelidae

1. コハンミョウ *Cicindela specularis*

大山：(1ex., 14.VII, 永田) (2exs., 15.VII, 藤田)

2. シロヘリハンミョウ *Cicindela nivicineta*

大山：(2exs., 17.VII, 姫野)

田皆岬：(2exs., 18.VII, 永田)

II オサムシ科 Carabidae

3. オオアオモリヒラタゴミムシ *Colpodes buchanani*

大山：(4exs., 16.VII, 永田) (4exs., 16.VII, 藤田) (3exs., 17.VII, 姫野)

瀬利覚～大山：(3exs., 20.VII, 永田)

4. オキナワケブカゴミムシ *Trichisia insularis*

大山：(1ex., 17.VII, 永田)

5. コアトワアオゴミムシ *Chlaenius hamifer*

大山：(1ex., 15.VII, 藤田)

瀬利覚：(1ex., 14.VII, 永田) (1ex., 18.VII, 姫野)

6. オオアトボジアオゴミムシ *Chlaenius micans*

大山：(1ex., 16.VII, 永田)

7. ブロンズクビナガゴミムシ *Odacantha metallica*

知名：(1ex., 18.VII, 姫野)

8. アオヘリアトキリゴミムシ *Parena latecineta*

瀬利覚～大山：(1ex., 14.VII, 永田)

9. アオヘリホソゴミムシ *Drytta japonica*

大山：(1ex., 17.VII, 姫野) (1ex., 19.VII, 永田) (1ex., 20.VII, 藤田)

III クビボソゴミムシ科 Brachinidae

10. オオミイデラゴミムシ *Pheropsophus javanus*

瀬利覚：(2exs., 14.VII, 姫野)

IV ゲンゴロウ科 Dytiscidae

11. セスジゲンゴロウ属の1種 *Copelatus* sp.

赤嶺：(1ex., 19.VII, 永田)

V ミズスマシ科 Gyrinidae

12. オオミズスマシ *Dineutus orientalis*

大山：(3exs., 17.VII, 藤田)

13. オキナワオオミズスマシ *Dineutus mellyi*

大山：(5exs., 16.VII, 永田) (3exs., 17.VII, 藤田)

VI ガムシ科 Hydrophilidae

14. セマルガムシ *Coelostoma stultum*

赤嶺：(6exs., 19.VII, 永田)

15. チビマルガムシ *Paracymus evanescens*

赤嶺：(3exs., 19.VII, 永田)

16. ヒメガムシ *Sternolophus rufipes*

赤嶺：(1ex., 19.VII, 永田)

VII ハネカクシ科 Staphylinidae auct.

17. アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes*

赤嶺：(2exs., 19.VII, 永田)

大山：(7exs., 16.VII, 永田) (1ex., 16.VII, 藤田) (1ex., 20.VII, 藤田)

(5exs., 17.VII, 姫野)

VIII クワガタムシ科 Lucanidae

18. オキノエラブノコギリクワガタ *Prosopocoilus dissimilis okinoerabuamus*

大山：(1♀, 17.VII, 姫野) (1♂, 20.VII, 米沢)

瀬利覚～昇竜洞：(1♂, 14.VII, 永田)

大山～大津勤：(1♂, 20.VII, 永田)

19. オキノエラブヒラタクワガタ *Dorcus platymeus okinoerabuensis*

余多：(1♂, 15.VII, 米沢)

大山：(1♂, 15.VII, 藤田) (1♂1♀, 16.VII, 藤田) (3♀, 17.VII, 藤田)

(1♀, 20.VII, 永田)

越山：(4♀, 15.VII, 中村)

20. オキノエラブネブトクワガタ *Aegus laevicollis tamanukii*

大山：(1♂, 14.VII, 藤田) (1♀, 15.VII, 永田) (1♂, 15.VII, 藤田)

(3♂♂, 17.VII, 藤田)

IX コガネムシ科 Scarabaeidae

21. オキナワアオドウガネ *Anomala albopilosa yashiroi*

大山：(2exs., 15.VII, 永田) (3exs., 17.VII, 永田) (1ex., 16.VII, 藤田)

知名：(2exs., 14.VII, 永田)

22. オオシマドウガネ *Anomala chloroderma*

大山：(1ex., 15.VII, 永田)

知名：(2exs., 14.VII, 永田)

23. ムシスジコガネ *Anomala edentula*

大山：(1ex., 17.VII, 永田)

24. リュウキュウツヤハナムグリ *Protaetia pryeri nitidicosta*  
 赤嶺：(1ex., 19.VII, 永田)  
 瀬利覚～大山：(1ex., 13.VII, 永田) (2exs., 14.VII, 藤田)  
 瀬利覚～昇竜洞：(5exs., 14.VII, 永田)
25. イシガキシロテンハナムグリ *Protaetia ishigakia okinawana*  
 瀬利覚：(1ex., 14.VII, 永田)
26. タイワンカブトムシ *Oryctes rhinoceros*  
 大山：(1ex., 16.VII, 藤田)  
 知名：(1ex., 14.VII, 永田)  
 X タマムシ科 Buprestidae
27. アヤムネスジタマムシ *Chrysodema lewisii*  
 昇竜洞：(1ex., 17.VII, 米沢)  
 瀬利覚～大山：(1ex., 14.VII, 永田)
28. アオウバタマムシ *Chalcophora japonica oshimana*  
 昇竜洞：(1ex., 14.VII, 米沢)
29. オオシマルリタマムシ *Chrysochroa fulgidissima alternans*  
 大山：(2exs., 16.VII, 米沢) (1ex., 18.VII, 米沢)  
 瀬利覚～大山：(1ex., 19.VII, 藤田)
30. ミドリナカボソタマムシ *Coraeus hastanus oberthueri*  
 昇竜洞：(1ex., 14.VII, 永田)  
 X I コメツキムシ科 Elateridae
31. ウバタマコメツキ *Paracalais berus*  
 大山：(1ex., 15.VII, 永田) (2exs., 16.VII, 藤田)
32. ヤエヤマサビコメツキ *Lacon yayeyamanus*  
 大山：(1ex., 17.VII, 永田)
33. オキナワクチブトコメツキ *Silesis okinawensis*  
 瀬利覚～大山：(1ex., 14.VII, 永田)
34. アマミミドリヒメコメツキ *Vuilletus amamiensis*  
 大山：(1ex., 14.VII, 藤田)  
 X II ホタル科 Lampyridae
35. オキナワスジボタル *Curtos okinawana*  
 瀬利覚～大山：(1ex., 16.VII, 倉園)  
 X III カツオブシムシ科 Dermestidae
36. ヨツモンチビカツオブシムシ *Orphinus quadrimaculatus*  
 瀬利覚：(1ex., 14.VII, 永田)  
 田皆～田皆岬：(1ex., 18.VII, 永田)  
 X IV ナガシンクイムシ科 Bostrychidae
37. オオナガシンクイ *Heterobostrychus hamatipennis*  
 大山：(1ex., 17.VII, 永田) (1ex., 17.VII, 姫野)  
 X V カッコウムシ科 Cleridae
38. ナガカッコウムシ属の1種 *Opilo* sp.  
 大山：(1ex., 16.VII, 永田)

X VI ケシキスイムシ科 Nitidulidae

39. アカマダラケシキスイ *Lasiodactylus pictus*

大山：(1ex., 15.VII, 藤田)

田皆～田皆岬：(1ex., 18.VII, 永田)

X VII ヒメハナムシ科 Phalacridae

40. キイロアシナガヒメハナムシ *Heterolitus nipponicus*

田皆～田皆岬：(1ex., 18.VII, 永田)

X VIII ホソヒラタムシ科 Silvanidae

41. *Psammoecus* sp.

大山：(1ex., 16.VII, 永田)

ミツモンセマルヒラタムシに似る。体長2.7mm.

42. モンセマルホソヒラタムシ *Cryptomorpha desdarsinsi*

大山～大津勤：(1ex., 20.VII, 永田)

X IX テントウムシ科 Coccinellidae

43. クビアカツヤテントウ *Serangium ruficolle*

大山：(1ex., 15.VII, 永田)

田皆～田皆岬：(1ex., 18.VII, 永田)

44. フタモンクロテントウ *Cryptogonus orbiculus*

大山：(1ex., 20.VII, 永田)

45. アマミアカホシテントウ *Chilocorus amamensis*

瀬利覚：(1ex., 13.VII, 永田)

瀬利覚～大山：(1ex., 20.VII, 永田)

46. ダイダイテントウ *Rodolia pumila*

大利覚～大山：(1ex., 20.VII, 永田)

大皆～田皆岬：(2exs., 18.VII, 永田)

47. ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata*

大山：(1ex., 20.VII, 藤田)

48. ヒメカメノコテントウ *Propylea japonica*

大山：(2exs., 16.VII, 永田) (1ex., 19.VII, 永田)

49. オオフタホシテントウ *Lemnia biplagiata*

瀬利覚～大山：(4exs., 20.VII, 永田)

瀬利覚～昇竜洞：(1ex., 14.VII, 永田)

田皆～田皆岬：(4exs., 18.VII, 永田)

50. ニジュウヤホシテントウ *Epilachna vigintioctopunctata*

瀬利覚～大山：(1ex., 20.VII, 永田)

大山：(1ex., 16.VII, 永田) (1ex., 17.VII, 永田) (1ex., 18.VII, 永田)

X X カミキリモドキ科 Oedemeridae

51. ハイイロカミキリモドキ *Eobia cinereipennis*

瀬利覚：(1ex., 13.VII, 永田)

X X I アリモドキ科 Anthicidae

52. ホソクビアリモドキ *Formicomus braminus tokarensis*

大山：(1ex., 13.VII, 永田) (2exs., 17.VII, 永田)

瀬利覚～大山：(5exs., 14.Ⅶ, 永田)

田皆～田皆岬：(2exs., 18.Ⅶ, 永田)

X X II ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

53. コスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coriaceum*

瀬利覚：(2exs., 18.Ⅶ, 姫野)

54. オオクビカクシゴミムシダマシ *Dicraeosis carinatus*

瀬利覚～大山：(4exs., 14.Ⅶ, 永田)

大山：(1ex., 17.Ⅶ, 永田) (2exs., 17.Ⅶ, 藤田) (1ex., 17.Ⅶ, 姫野)

(1ex., 18.Ⅶ, 永田) (1ex., 19.Ⅶ, 藤田) (2exs., 20.Ⅶ, 永田)

55. ヘリアカゴミムシダマシ *Eutochia lateralis*

大山：(2exs., 15.Ⅶ, 藤田) (1ex., 20.Ⅶ, 永田)

内喜名浜：(2exs., 19.Ⅶ, 永田)

56. アマミホソゴミムシダマシ *Hypophloeus amamiensis*

知名：(1ex., 18.Ⅶ, 藤田)

57. オオツヤホソゴミムシダマシ *Menephilus arciscelis*

大山：(1ex., 17.Ⅶ, 姫野)

58. カラカネチビキマワリモドキ *Tetragonomenes palpaloides*

大山：(1ex., 17.Ⅶ, 藤田)

59. ドウイロナガキマワリ *Strongylium amamianum*

大山～大津勘：(1ex., 20.Ⅶ, 永田)

越山：(1ex., 15.Ⅶ, 中村)

60. セスジナガキマワリ *Strongylium cultellatum*

瀬利覚～大山：(1ex., 20.Ⅶ, 永田)

X X III カミキリムシ科 Cerambycidae

61. ツシマムナクボカミキリ *Cephalallus unicolor*

大山：(1♀, 15.Ⅶ, 藤田)

62. ケプトハナカミキリ *Caraphia lepturoides*

瀬利覚～昇竜洞：(1exs., 14.Ⅶ, 永田)

63. リュウキュウヒメカミキリ *Ceresium fuscum*

瀬利覚～昇竜洞：(4exs., 14.Ⅶ, 永田)

64. チャイロヒメカミキリ *Ceresium simile*

瀬利覚～大山：(1ex., 16.Ⅶ, 藤田)

瀬利覚～昇竜洞：(1ex., 14.Ⅶ, 藤田)

65. ホソガタヒメカミキリ *Ceresium elongatum*

大山：(1ex., 17.Ⅶ, 藤田) (1ex., 20.Ⅶ, 藤田)

瀬利覚～大山：(1ex., 14.Ⅶ, 藤田)

66. フタオビミドリトラカミキリ *Chlorophorus mucosus*

瀬利覚～大山：(2exs., 20.Ⅶ, 永田)

瀬利覚～昇竜洞：(1ex., 14.Ⅶ, 永田)

大山：(1ex., 16.Ⅶ, 永田) (1ex., 20.Ⅶ, 藤田)

67. ヨツスジトラカミキリ *Chlorophorus quinquefasciatus*

瀬利覚：(1ex., 16.Ⅶ, 藤田)

- 瀬利覚～大山：(3exs., 13.VII, 永田)  
 瀬利覚～昇竜洞：(4exs., 14.VII, 永田)
68. オオシマウスアヤカミキリ *Bumetopia oshimana*  
 田皆：(1ex., 18.VII, 永田)
69. ナカジロゴマフカミキリ *Mesosa konoi okinoerabuensis*  
 大山：(1ex., 14.VII, 永田) (1ex., 15.VII, 永田) (4exs., 16.VII, 永田)  
 (2exs., 16.VII, 藤田) (1ex., 17.VII, 永田) (2exs., 17.VII, 姫野)  
 (1ex., 19.VII, 藤田) (2exs., 20.VII, 永田)  
 瀬利覚：(1ex., 13.VII, 永田)  
 田皆：(1ex., 18.VII, 永田)
70. アトモンチビカミキリ *Sybra baculina*  
 瀬利覚～大山：(2exs., 13.VII, 永田) (3exs., 14.VII, 永田)  
 田皆岬：(2exs., 18.VII, 永田)
71. アヤモンチビカミキリ *Sybra ordinata okinoerabuensis*  
 赤嶺：(1♀, 19.VII, 永田)  
 大山：(2♀♀, 14.VII, 永田) (4exs., 20.VII, 藤田)  
 瀬利覚～大山：(2♂♂2♀♀, 13.VII, 永田) (1ex., 16.VII, 藤田)  
 瀬利覚～昇竜洞：(1ex., 14.VII, 藤田)  
 瀬利覚～知名：(1ex., 18.VII, 藤田)  
 田皆～田皆岬：(1♂5♀♀, 18.VII, 永田)
72. アラキドウボソカミキリ *Pothyne hayashii okinoerabua*  
 大山：(1ex., 15.VII, 永田) (2exs., 17.VII, 永田) (1ex., 18.VII, 藤田)  
 (4exs., 19.VII, 藤田) (1ex., 20.VII, 永田) (11exs., 20.VII, 藤田)
73. オキノエラブドウボソカミキリ *Pothyne nobuoi ishigakiana*  
 大山：(1ex., 20.VII, 永田)
74. オオシマドウボソカミキリ *Hyllisia oshimana*  
 瀬利覚～昇竜洞：(1ex., 14.VII, 永田)
75. サビアヤカミキリ *Abryna obscura*  
 大山：(1ex., 14.VII, 永田)  
 瀬利覚：(1ex., 20.VII, 永田) (4exs., 20.VII, 藤田)
76. ワモンサビカミキリ *Pterolophia annulata*  
 大山：(1ex., 14.VII, 永田) (2exs., 20.VII, 藤田)  
 瀬利覚～知名：(1ex., 18.VII, 藤田)
77. オキノエラブハネナシサビカミキリ *Pseudale gibbosipennis*  
 大山：(3exs., 20.VII, 永田)
78. オキナワキボシカミキリ *Psacotha teneburosa intermedia*  
 大山：(1♂, 17.VII, 永田)  
 瀬利覚～大山：(1♂1♀, 16.VII, 藤田)  
 瀬利覚～昇竜洞：(1♀, 14.VII, 永田)
79. オキナワフトカミキリ *Blepephaeus okinawanus*  
 大山：(1♀, 17.VII, 藤田) (1♀, 19.VII, 藤田)

80. オオシマゴマダラカミキリ *Anoplophora oshimana*  
 大山：(1♂2♀♀, 14.VII, 永田) (1♂, 17.VII, 永田)  
 瀬利覚～大山：(1♂, 17.VII, 藤田)
81. オオシマヤハズカミキリ *Uraecha oshimana*  
 大山：(1♀, 14.VII, 永田) (1ex., 19.VII, 藤田) (7exs., 20.VII, 藤田)
82. オオシマヒロウドカミキリ *Acalolepta oshimana*  
 大山：(1♂, 19.VII, 藤田) (1♂, 20.VII, 永田) (2♂♂1♀, 20.VII, 藤田)
83. ムツボシシロカミキリ *Olenecamptus indianus*  
 瀬利覚：(1ex., 15.VII, 藤田)
84. オキノエラブコブヒゲカミキリ *Rhodopina okinoerabuana*  
 大山：(1♂4♀♀, 16.VII, 永田) (1ex., 16.VII, 藤田) (3exs., 17.VII, 藤田)  
 (5exs., 19.VII, 藤田) (2♂♂3♀♀, 20.VII, 永田) (3exs., 20.VII, 藤田)  
 瀬利覚～知名：(1ex., 18.VII, 藤田)
85. リュウキュウドイカミキリ *Doiis flavovariegatus*  
 大山：(1ex., 20.VII, 永田) (1ex., 20.VII, 藤田)
86. リュウキュウルリボシカミキリ *Glenea chlorospila*  
 瀬利覚～大津勘：(1ex., 16.VII, 永田)  
 X X IV ハムシ科 Chrysomelidae auct.
87. ニセウスイロサルハムシ *Basilepta hirayamai*  
 大山：(2exs., 17.VII, 永田)
88. オキナワイモサルハムシ *Colasposoma auripenne*  
 大山：(3exs., 17.VII, 永田)  
 このうちの2個体はイモサルハムシのような青藍色をしている。なお、上翅側方  
 には本種の特徴とされる不規則な横しわが明らかに認められる。  
 瀬利覚～大山：(1ex., 14.VII, 永田) (1ex., 16.VII, 藤田) (2exs., 20.VII, 永田)  
 瀬利覚～知名：(2exs., 18.VII, 藤田)  
 瀬利覚～昇竜洞：(3exs., 14.VII, 永田)
89. アカガネサルハムシ *Acrothinium gaschkevitchii matsui*  
 大山：(1ex., 14.VII, 永田)  
 瀬利覚～大山：(1ex., 16.VII, 藤田) (1ex., 20.VII, 永田) (1ex., 20.VII, 藤田)  
 田皆～田皆岬：(1ex., 18.VII, 永田)
90. オオミドリサルハムシ *Platycorynus japonicus umebayashii*  
 瀬利覚～大山：(3exs., 14.VII, 永田)
91. ツツサルハムシ *Abirus fortunei*  
 瀬利覚～大山：(2exs., 14.VII, 永田)  
 瀬利覚～昇竜洞：(2exs., 14.VII, 藤田)
92. シャシャンボサルハムシ *Colaspoides fulva*  
 大山：(1ex., 16.VII, 永田) (1ex., 17.VII, 永田)  
 田皆～田皆岬：(1ex., 18.VII, 永田)
93. ウリハムシ *Aulacophora femoralis*  
 赤嶺：(1ex., 19.VII, 永田)  
 瀬利覚：(2exs., 13.VII, 永田) (2exs., 20.VII, 永田)



- 瀬利覚～大山：(1ex., 16.VII, 藤田)  
 瀬利覚～昇竜洞：(1ex., 14.VII, 永田)  
 田皆岬：(1ex., 18.VII, 永田)
94. フタイロウリハムシ *Aulacophora bicolor*  
 瀬利覚～知名：(1ex., 18.VII, 藤田)
95. ヒメクロウリハムシ *Aulacophora lewisii*  
 瀬利覚：(7exs., 20.VII, 永田)
96. オキナワイチモンジハムシ *Morphosphaera coerulea*  
 大山：(13exs., 20.VII, 永田)  
 瀬利覚～大山：(1ex., 14.VII, 永田) (1ex., 19.VII, 藤田) (1ex., 20.VII, 藤田)
97. カミナリハムシ *Altica cyanea*  
 赤嶺：(2exs., 19.VII, 永田)  
 大山：(1ex., 17.VII, 永田)  
 瀬利覚～大山：(1ex., 13.VII, 永田)  
 田皆～田皆岬：(6exs., 18.VII, 永田)
98. ヨツモンタマノミハムシ *Sphaeroderma quadrimaculatum*  
 大山：(1ex., 16.VII, 永田)  
 瀬利覚～昇竜洞：(1ex., 14.VII, 藤田)  
 田皆～田皆岬：(1ex., 18.VII, 永田)
99. タテスジヒメジンガサハムシ *Cassida circumdata*  
 瀬利覚～昇竜洞：(2exs., 14.VII, 永田)  
 田皆～田皆岬：(10exs., 18.VII, 永田)
100. イチモンジカメノコハムシ *Thlaspida cribrata*  
 大山：(2exs., 17.VII, 永田)  
 瀬利覚～昇竜洞：(1ex., 14.VII, 永田)  
 X X V ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae
101. ワタミヒゲナガゾウムシ属の1種 *Araecerus* sp.  
 大山～大津勘：(1ex., 20.VII, 永田)  
 瀬利覚～大山：(1ex., 13.VII, 永田)  
 X X VI オトシブミ科 Attelabidae
102. オトシブミ科の1種 *Attelabidae* sp.  
 大山：(1ex., 16.VII, 永田)  
 一見セアカチャッキリに似る。属名は不明。  
 X X VII ソウムシ科 Curculionidae
103. ハイイロクチブトソウムシ *Cyphicerus kuchibutomus*  
 大山：(3exs., 20.VII, 藤田)  
 田皆：(3exs., 18.VII, 永田)
104. サカグチクチブトソウムシ *Oedophrys sakaguchii*  
 瀬利覚：(1ex., 13.VII, 永田)
105. オキナワクワゾウムシ *Episomus mori*  
 瀬利覚～大山：(2exs., 13.VII, 永田) (4exs., 15.VII, 藤田)  
 瀬利覚～昇竜洞：(2exs., 14.VII, 永田)

- 田皆：(2exs., 18.Ⅶ, 永田)
106. ホソヒョウタンゾウムシ *Sympiezomias cribricollis*  
 大山：(2exs., 17.Ⅶ, 永田)  
 大山～大津勘：(1ex., 20.Ⅶ, 永田)  
 瀬利覚～大山：(5exs., 14.Ⅶ, 藤田) (3exs., 20.Ⅶ, 永田)  
 瀬利覚～知名：(1ex., 18.Ⅶ, 藤田)  
 田皆～田皆岬：(2exs., 18.Ⅶ, 永田)
107. コフキゾウムシ *Eugnathus distinctus*  
 瀬利覚～大山：(1ex., 13.Ⅶ, 永田) (3exs., 14.Ⅶ, 永田)
108. アルファルファタコゾウムシ *Hypera postica*  
 大山：(2exs., 16.Ⅶ, 永田)
109. シロアナアキゾウムシ *Hesychobius vossi*  
 大山：(1ex., 17.Ⅶ, 永田)  
 瀬利覚：(1ex., 15.Ⅶ, 藤田)  
 知名：(1ex., 14.Ⅶ, 永田)
110. ヒラヤマメナガゾウムシ *Aclees hirayamai*  
 瀬利覚：(1ex., 14.Ⅶ, 永田)  
 田皆：(1ex., 18.Ⅶ, 永田)
111. トゲオクロクチカクシゾウムシ *Odosyllis subcostatus*  
 大山：(2exs., 17.Ⅶ, 永田) (4exs., 17.Ⅶ, 藤田) (1ex., 19.Ⅶ, 藤田)  
 (1ex., 20.Ⅶ, 藤田)  
 X X Ⅷ オサゾウムシ科 Rhynchophoridae
112. オオゾウムシ *Sipalinus gigas*  
 大山：(1ex., 15.Ⅶ, 藤田)
113. バナナツヤオサゾウムシ *Odoiporus longicollis*  
 瀬利覚～大山：(4exs., 19.Ⅶ, 藤田) (5exs., 20.Ⅶ, 永田)  
 X X Ⅸ ナガキクイムシ科 Platypodidae
114. ソトハナガキクイムシ *Crossotarsus externedentatus*  
 大山：(1ex., 15.Ⅶ, 永田)  
 X X X キクイムシ科 Scolytidae
115. ユズリハノキクイムシ *Xyleborus torquatus*  
 大山：(1ex., 15.Ⅶ, 永田)

#### 参考文献

- 上野俊一・他(1984～1986)原色甲虫図鑑(Ⅰ)～(Ⅳ).保育社.  
 岡島秀治・山口 進(1988)検索入門クワガタムシ.保育社.  
 高井 泰(1991)1981年沖永良部島合宿. L E B E N, (21)31～45. 鹿児島大学生物研究会.  
 田中 洋・他(1992)奄美群島に侵入した台湾カブトムシ. S A T S U M A, 40(105)  
 64～69. 鹿児島昆虫同好会.

(ながた たけし・ふじた ひろし・ひめの たかお)

# チョウ類の採集・観察記録

桐野 敦子・倉園 憲

沖永良部島に行くのは、この合宿で2回目だった。親の仕事の関係で、小学校4年から6年までは、奄美で過ごしていた。小学校5年の時、観光ついでに採集しようという気持ちで沖永良部島に行ったことがあった。西暦に直すと1984年のことだ。その当時、沖永良部島に、コノハチョウがいるという噂が流れ、やっきになって探したが、コノハチョウの習性や棲んでいる環境など何も調べずに行ったので結局見つからなかった。だから、今度の合宿では是非コノハチョウを捕まえたいと思っていた。7月13日昼過ぎ沖永良部島に着き、早速近くを歩き回った。昇竜洞の出口付近の木にバナナトラップを仕先輩と一緒に待った。今日は、コノハチョウは来ないだろうと、諦めて帰ろうとした時頭上の葉上にパッと綺麗な蝶が舞い降りてきた。それが、求めているコノハチョウだったのだ。今回の合宿でコノハチョウを採ったのは、僕が最初だった。その時は、とても感動したが合宿も最後の方になってくると、あまり珍しいと思わなくなってしまふほど沢山いた。10年前の合宿では「コノハチョウを見た。」と言った人がバカにされたそうだが、今合宿においてはコノハチョウを採れなかった人はいなかった。むしろ、10日もいてコノハチョウを採れなかった人は、バカにされていただろう。これでも最盛期の頃に比べると減っているそうだ。僕はコノハチョウを9匹も採った。でも、これからは持っていない蝶だけを集めるようにしたい。1年の最初の夏合宿としては、かなり、充実していたのではないかと思う。

〔倉園〕

1992年7月13日～21日まで、沖永良部島の南西部の集落を中心にチョウの採集・観察を行った。その結果、迷チョウを含む8科40種の蝶類が確認された。これは迷蝶とされているマルバネリリマダラ・ツمامラサキ・メスアカムラサキ・リュウキュウムラサキを除くと、沖永良部島で土着、あるいは土着がまだ確認されずに記録されている種(\*1)の約77%にあたる。また、新記録のクロボシセリが成虫で採集され、今後の動向に興味を持たれる。このような今回の合宿の採集記録とリストの詳細は別記のとおりである。しかし、リストは各人の採集記録を中心にまとめたものであり、観察範囲のチョウ相を十分に反映しているとは思われない。そこで今回は島の3地点間のチョウの種類・目撃個体数と合宿期間中のチョウの訪花をまとめてみた。

\*1: 大坪修一・田中 洋(1988) 鹿児島県産蝶類・市町村島別分布表

S A T S U M A 37(100): 230-231

## 観察方法

チョウの種類・目撃個体数は、7月13日～21日までの合宿期間中、沖永良部島南西部の3地点間において観察を行った。原則として観察するコースの前後・左右・上方に目撃することのできる成虫の個体を全て記録し、同定の困難な種は捕獲後、確認し、放逐した。また、採集個体も個体数に含め、できるだけ同一個体は重複して数えないようにした。

チョウの訪花は合宿期間中の目撃記録をもとにまとめた。訪花した種名・目撃日・場

所の他、目撃時間も確実なデータは合わせて載せた。訪花植物はその場で同定したが、同定の困難な種は宿舎に持ち帰り同定した他、標本を鹿児島に持ち帰って、同定したものもある。なお、植物の同定には「フィールド版日本の野生植物」(1985. 平凡社)「日本の野生植物木本Ⅰ, Ⅱ」(1989. 平凡社), 改訂「鹿児島県植物目録」(1986. 初島住彦. 鹿児島植物同好会), 「沖縄教材植物図鑑」(1982. 仲真良英. 沖縄時事出版)を用いた。

**結果**

**チョウの種類・目撃個体数**

**〈瀬利覚～大山〉**

瀬利覚から大山までのコースでは7月14日は16種104個体, 7月15日は14種98個体が観察できた。(Table 1・Table 2)

(Table 1) 7月14日 9:20～10:20 1時間

種名	アオスジアゲハ	シロオビアゲハ	イシガケチョウ	リュウキュウミスジ	ナミエシロチョウ	ヤマトシジミ	ツマグロヒョウモン	ツマゲロヒョウモン	ナガサキアゲハ	モンキアゲハ	キョウウ	ルリタテハ	タテハモドキ	モンキチョウ	クロボシシジミ	タイワン	カバマダラ	アカタテハ	計
数	31	28	11	7	4	4	4	4	3	2	2	2	2	1	1		1	1	104

(Table 2) 7月15日 8:55～9:55 1時間

種名	シロオビアゲハ	アオスジアゲハ	イシガケチョウ	ナガサキアゲハ	ヤマトシジミ	ツマグロヒョウモン	ツマベニチョウ	モンキチョウ	リュウキュウミスジ	モンキアゲハ	ナミエシロチョウ	ヒメアカタテハ	キョウウ	カバマダラ	計
数	32	24	13	4	4	4	3	3	3	2	2	2	1	1	98

このコースでは比較的多くの種が目撃され、蝶影が濃く感じられた。中でもシロオビアゲハ・アオスジアゲハ・イシガケチョウの個体数が目立つ。イシガケチョウは集落内で目撃する個体数よりもはるかに多い。森林部の林縁を含むコースであるためだろう。

**〈田皆～田皆岬〉**

田皆から田皆岬までのコースでは13種52個体を観察した。

(Table 3) 7月16日 10:40 ~ 11:15 35分

種名	シロオビアゲハ	アオスジアゲハ	ヤマトシジミ	キチョウ	モンシロチョウ	モンキチョウ	ツマグロヒョウモン	ツマベニチョウ	テングチョウ	カバマダラ	アサギマダラ	リュウキュウ	リュウキュウミスジ	メスアカムラサキ	計
数	13	8	8	6	5	3	3	1	1	1	1	1	1	52	

観察時間が〈瀬利覚〜大山〉に比べ短いので一概には比較できないが、ヤマトシジミがシロオビアゲハ・アオスジアゲハについて多いこと、新たにモンシロチョウがみられるのはこのコースの特徴であると思われる。ヤマトシジミの食草のカタバミ(カタバミ科)が海岸付近・耕作地脇・集落内によくみられ、モンシロチョウの食草となる栽培アブラナ科も集落周辺にみられるためであろう。

集落を出ると両側はサトウキビ畑などの耕作地で、平坦なアスファルト道が続く。モクマオウ以外の樹木も目立たず、海からの風が直接吹き渡って来る。観察日は風が強くまた、田皆の集落内に比べてチョウ類の訪花も少なかった。訪花植物の種類も少ない。多くの種は飛翔中であつたが、メスアカムラサキが岬で、また観察時間外にはリュウキュウムラサキが田皆集落の民家の外れでテリトリーを張っていた。

〈瀬利覚〜ガジマル辻(芦清良)〉

瀬利覚〜ガジマル辻(芦清良)までのコースでは9種40個体が観察できた。

(Table 4) 7月18日 10:30~11:15 45分

種名	シロオビアゲハ	アオスジアゲハ	モンシロチョウ	ツマグロヒョウモン	モンキチョウ	モンキアゲハ	ナミエシロチョウ	タテハモドキ	計
数	12	8	7	6	2	2	1	1	40

集落間のバス道路上で観察した。バス道路より下は海岸部まで耕作地である。集落内では多いツマベニチョウは、ここでは観察されていない。集落周辺に多いモンシロチョウがみられたほかは、全体的に蝶影は薄い。集落内に比べ集落間の道路上はチョウの種類・個体数ともに少ない。観察時間が遅かったこともあるが、訪花植物・食草などチョウをとどめる要因も貧弱であるためと思われる。

訪花植物

以下は、チョウ（成虫）の訪花を植物ごとにまとめたものである。吸蜜と単なる飛来との区別が曖昧だったため、どちらも訪花としてとらえた。

色	訪花植物	チョウ（成虫）の種・目撃日，時刻，場所
桃色	ニチニチソウ キョウチクトウ科	シロオビアゲハ(16日, 田皆~田皆岬, 13:30, 田皆) チャバネセセリ(17日, 10:15, 徳時)
	ノアサガオ ヒルガオ科	ヤマトシジミ(16日, 田皆~田皆岬)
	アレチハナガサ クマツツラ科	シロオビアゲハ(15日, 9:40, 瀬利覚~大山) キチョウ(16日, 田皆~田皆岬) モンシロチョウ(17日, 10:15, 徳時)
紅色	クマツツラ クマツツラ科	キチョウ(16日, 14:10, 田皆) ヤマトシジミ(16日, 田皆~田皆岬, 14:10, 田皆)
	ウスベニニガナ キク科	ヤマトシジミ(17日, 10:15, 徳時)
	ヒギリ クマツツラ科	モンキアゲハ(13日, 16:45, 昇竜洞)
橙色	ダンドク ダンドク科	シロオビアゲハ(18日, 14:25, 後園)
	ハイビスカス (フックウゲを含む)	シロオビアゲハ(18日, 12:50, 越山) ナガサキアゲハ(17日, 12:55, 大山・18日, 12:50, 越山) キチョウ(17日, 12:55, 大山) ツマベニチョウ(13日, 瀬利覚・17日, 12:50, 越山)
	アオイ科	
黄色	ランタナ クマツツラ科	タテハモドキ(16日, 田皆岬)
	マメ科 ササゲ属(Vigna) の一種	ウラナミシジミ(18日, 14:20, 後園)
	シナガワハギ マメ科	ヤマトシジミ(16日, 田皆~田皆岬)
白色	ツルソバ タデ科	キチョウ(16日, 田皆~田皆岬)
	マサキ ニシキキ科	アオスジアゲハ(17日, 11:10, 徳時)
	リュウキュウボダンツル キンボウゲ科	シロオビアゲハ(17日, 17:45, 瀬利覚~大山)
	アワユキセンダングサ類	アオスジアゲハ(15日, 瀬利覚~大山) シロオビアゲハ(18日, 10:45, 黒貫) モンキチョウ(15日, 9:15, 瀬利覚~大山) ヤマトシジミ(15日, 9:07, 瀬利覚~大山) ツマグルヒョウモン(15日, 瀬利覚~大山) ヒメアカタテハ(15日, 瀬利覚~大山) タテハモドキ(18日, 14:25, 後園)
	クサギ クマツツラ科	シロオビアゲハ(15日, 9:33, 瀬利覚~大山・18日, 14:55, 後園~大山) モンキアゲハ(18日, 14:55, 後園~大山) ナガサキアゲハ(18日, 14:55, 後園~大山)
	マメグンバイナズナ アブラナ科	モンシロチョウ(17日, 9:45, 瀬利覚~知名)
	テリハノブドウ フトウ科	アオスジアゲハ(18日, 14:00, 越山~後園・19日, 14:15, 水蓮洞) シロオビアゲハ(19日, 14:15, 水蓮洞) ナミエシロチョウ(18日, 11:10, 芦浦良, 14:00, 越山~後園・19日, 14:15, 水蓮洞)

終わりに

以上の目撃記録の一部は鱗翅目リストに載せたが、多くは割愛した。

チョウがなぜそこにいるのか、チョウの種類・個体数からチョウの“環境”がみえてこないだろうか、といつも思っているのだが、観察時間・観察地の選択・観察回数などの配慮がまだ足りないことが多い。短期の合宿ではあるが、その間にできるチョウ類相の把握をどういう方法で進めるかが課題であると考え。定まった視点を持たなければならぬ。

〔桐野〕

## 鱗 翅 目 LEPIDOPTERA

### I アゲハチョウ科 Papilionidae

1. ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous*  
大山：(目撃1ex., 18.VII, 桐野) (1♂, 18.VII, 倉園)
2. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*  
大山：(1♂, 15.VII, 桐野) (1ex., 18.VII, 米沢) (1ex., 20.VII, 米沢)  
瀬利覚～大山：(1♂, 15.VII, 桐野)
3. アゲハ *Papilio xuthus*  
昇竜洞～大山：(1ex., 17.VII, 米沢)  
他の目撃, 採集なし。
4. シロオビアゲハ *Papilio polytes*  
大山：(1♀, 15.VII, 倉園) (1♂, 18.VII, 倉園) (1♂2♀♀, 18.VII, 米沢)  
瀬利覚～大山：(1♂1♀, 14.VII, 桐野)  
山地の林縁・集落周辺・海岸付近で多数目撃できた。
5. モンキアゲハ *Papilio helenus*  
大山：(1♂, 15.VII, 桐野) (1♂, 18.VII, 倉園)
6. ナガサキアゲハ *Papilio memnon*  
大山：(1♀, 18.VII, 倉園) (1♂, 18.VII, 米沢)  
後蘭：(2♀♀, 18.VII, 桐野)  
昇竜洞：(1♂, 20.VII, 米沢)  
昇竜洞～水蓮洞：(1♂, 17.VII, 米沢)

### II シロチョウ科 Pieridae

7. モンキチョウ *Colias (Colias) erate*  
越山：(1♀, 16.VII, 倉園)  
瀬利覚～大山：(1♂1♀, 14.VII, 桐野) (1♀, 15.VII, 桐野) (1♂, 18.VII, 倉園)  
7月20日, 徳時から海岸部へ向かう道路脇のシナガワハギで1ex.がチブサトゲグモに捕食されていた。
8. ウスキシロチョウ *Catopsilia pomona*  
昇竜洞：(目撃1ex., 15.VII, 桐野)  
昇竜洞～大山：(1ex., 17.VII, 桐野)  
15日, 12:00頃, 昇竜洞入口でシロオビアゲハ・ナミエシロチョウ・ツマベニチ

ヨウ他6種のチョウとともに飛翔していた。ギョボクやミカン類が植えられている。  
目撃はどちらもギンモン型。

9. キチヨウ *Eurema (Terias) hecabe*  
瀬利覚～大山：(1♂, 14.VII, 桐野) (2♀♀, 15.VII, 桐野)  
田皆～田皆岬：(1♀, 16.VII, 桐野)
10. ナミエシロチョウ *Appias (Catophaga) paulina*  
大山：(2♂♂1♀, 15.VII, 桐野) (1♂, 17.VII, 倉園) (1♀, 18.VII, 倉園)  
(1♀, 18.VII, 米沢) (1♂, 20.VII, 米沢)  
瀬利覚：(1♀, 13.VII, 桐野)  
18日, 15:15頃, 後蘭～大山に向かう林道で1♀が食草のツゲモドキに産卵をしていた。
11. モンシロチョウ *Pieris (Artogeia) rapae*  
瀬利覚：(1♀, 14.VII, 桐野)
12. ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe*  
大山：(2♂♂, 14.VII, 桐野) (1♂, 18.VII, 倉園) (1♀, 19.VII, 桐野)  
昇竜洞～水蓮洞：(1♂, 17.VII, 米沢)
- III シジミチョウ科 Lycaenidae
13. ムラサキシジミ *Narathura japonica*  
大山：(1♀, 14.VII, 桐野)
14. イワカワシジミ *Artipe eryx*  
大山：(卵3exs., 幼虫2exs., 15.VII, 桐野) (1♀, 18.VII, 倉園)  
昇竜洞～水蓮洞：(1♀, 17.VII, 米沢)
15. ウラナミシジミ *Lampides boeticus*  
後蘭：(目撃1ex., 18.VII, 桐野)
16. アマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava*  
大山：(1♂, 14.VII, 桐野) (1♂, 14.VII, 倉園) (1♂, 15.VII, 桐野)  
(1♀, 19.VII, 溝口)
17. ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha*  
後蘭：(1♀, 18.VII, 桐野)  
瀬利覚～大山：(1♂, 14.VII, 桐野)  
田皆～田皆岬：(1♂1♀, 16.VII, 桐野)  
徳時～屋子母：(1♀, 19.VII, 桐野)
18. シルビアシジミ *Zizina otis*  
大山：(1♂1♀, 14.VII, 桐野)  
瀬利覚～大山：(1♀, 14.VII, 桐野)  
屋子母海岸：(3♂♂1♀, 20.VII, 桐野)
19. タイワンクロボシシジミ *Megisba malaya*  
大山：(1ex., 13.VII, 桐野) (1ex., 15.VII, 桐野)  
越山：(1ex., 15.VII, 桐野)



IV テングチョウ科 Libytheidae

20. テングチョウ *Libythea celtis*

大山：(目撃1ex., 15.VII, 桐野) (1♀, 15.VII, 倉園)

田皆：(目撃1ex., 16.VII, 桐野)

V マダラチョウ科 Danaidae

21. カバマダラ *Anosia chrysiptus*

瀬利覚：(1♀, 14.VII, 桐野)

瀬利覚～大山：(2♀♀, 15.VII, 桐野) (1♀, 17.VII, 桐野)

田皆～田皆岬：(1♀, 16.VII, 桐野)

徳時：(1♂, 14.VII, 倉園) (2♂♂, 17.VII, 倉園)

16日, 田皆集落外れの耕作地脇に生えていた, 食草のトウワタ7本を調べてみた。

食草	a	b	c	d	e	f	g
卵数	1	0	0	2	1	3	0
幼虫数	2	2	2	0	2	2	2
体長(mm)	4.7	7.7	7.17	/	10.4	5.8	18.7

22. スジグロカバマダラ *Salatura (Anosia) genutia*

赤嶺：(目撃1ex., 18.VII, 米沢)

他の目撃・採集なし

23. アサギマダラ *Parantica sita*

大山：(1♀, 15.VII, 桐野)

24. リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis (Radena) similis*

大山：(1♂, 18.VII, 桐野)

田皆～田皆岬：(1♂, 16.VII, 桐野)

25. マルバネルリマダラ *Euploea leucostictos*

瀬利覚：(1♂, 13.VII, 桐野)

他の目撃・採集なし

26. ツمامラサキマダラ *Euploea mulciber*

大山：(1♂, 18.VII, 米沢)

昇竜洞：(1♂, 15.VII, 米沢)

昇竜洞～水蓮洞：(1♂, 17.VII, 米沢)

他の目撃・採集なし

17日, 昇竜洞～水蓮洞で得られた1♀を鹿児島で飼育。8月26日～9月1日の間に1卵が孵化, クワ科のアコウを与えて9月7日に蛹化, 15日に1♀が羽化した。その後, 母蝶は10月3日まで生きた。

VI タテハチョウ科 Nymphalidae

27. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

- 瀬利覚～大山：(1♀, 14.VII, 桐野)  
 田皆：(1♀, 16.VII, 桐野)
28. リュウキュウミスジ *Neptis hylas*  
 大山：(1♀, 14.VII, 桐野) (1♀, 14.VII, 倉園) (1♀, 18.VII, 倉園)  
 (1♀, 19.VII, 桐野)  
 瀬利覚：(1♂, 14.VII, 桐野)
29. ルリタテハ *Kaniska canace*  
 大山：(1♀, 14.VII, 桐野) (1♀, 17.VII, 桐野) (1♂, 18.VII, 倉園)  
 (1ex., 18.VII, 米沢) (3♂♂, 20.VII, 倉園)  
 コノハチョウとともにトラップに好んで集まった。
30. ヒメアカタテハ *Cynthia cardui*  
 瀬利覚～大山：(1♀, 15.VII, 桐野)
31. アカタテハ *Vanessa indica*  
 屋子母：(1♂, 16.VII, 桐野)  
 16日, 14:55, カラムシ(イラクサ科)に産卵。
32. タテハモドキ *Precis almana*  
 大山：(1♂, 15.VII, 桐野)
33. コノハチョウ *Kallima inachus*  
 大山：(1♂, 13.VII, 倉園) (1♀, 14.VII, 桐野) (4♂♂1♀, 15.VII, 桐野)  
 (1♀, 16.VII, 米沢) (1♀, 17.VII, 倉園) (1♂1♀, 18.VII, 倉園)  
 (1♂1♀, 20.VII, 倉園)  
 14日, 15:00頃, 産卵を観察する。1卵を食草のオキナワスズムシソウに産み付  
 けると、近くのシダ植物の葉上にとまって羽を全開、木漏れ日で日光浴をしてい  
 るようだった。
34. メスアカムラサキ *Hypolimnas misippus*  
 越山：(1♂, 15.VII, 桐野)  
 田皆岬：(1♂, 16.VII, 桐野)  
 田皆岬, 越山頂上で♂が占有。
35. リュウキュウムラサキ *Hypolimnas bolina*  
 大山：(1♂, 18.VII, 倉園)  
 越山：(1♂, 16.VII, 倉園)  
 田皆：(1♂1♀, 16.VII, 桐野)  
 徳時～屋子母：(2♂♂, 20.VII, 桐野)  
 20日, 徳時～屋子母の海岸寄りの道沿いでは3頭の♂がそれぞれテリトリーをは  
 っていた。
36. イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas*  
 大山：(1ex., 18.VII, 米沢) (1♂, 19.VII, 桐野) (1♂, 20.VII, 倉園)  
 17日, 11:10, 徳時集落内のアコウに産卵。

VII ジャノメチョウ科 Satyridae

37. ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda*  
 瀬利覚：(1♂, 19.VII, 桐野)

Ⅶ セセリチョウ科 HesperIIDae

38. アオバセセリ *Choaspes benjaminii*

大山：(1♂, 19.Ⅶ, 桐野) (1♀, 19.Ⅶ, 溝口)

20日, ヤマビワの新芽上に営巣する本種の幼虫を目撃。

39. クロボシセセリ *Suastus gremius*

水蓮洞：(1ex., 18.Ⅶ, 倉園)

他の目撃・採集なし

13日, 昇竜洞のクロツグのある川沿いにシダ植物上を飛ぶ, 本種らしい姿を見たが…。18日の採集により19日, 水蓮洞で成虫及び幼虫を捜した。中心に捜したクロツグには巣もみあたらなかった。

40. チャバネセセリ *Pelopidas mathias*

瀬利覚：(1♂, 13.Ⅶ, 桐野)

田皆：(2♀, 16.Ⅶ, 桐野) (1♂1♀, 18.Ⅶ, 溝口)

徳時：(1♀, 17.Ⅶ, 桐野)

徳時～屋子母：(1♂1♀, 20.Ⅶ, 桐野)

以上, 7月13日～7月21日までの沖永良部島における採集, 目撃記録である。

学名及び種の配列は全て「原色日本蝶類図鑑」(保育社)によった。

〔桐野〕

参考文献

川副昭人・若林守男(1985)原色日本蝶類図鑑. 保育社.

(きりの あつこ・くらその けん)

# [ 短報 ]

## クロボシセセリを沖永良部島で採集

倉園 憲

1992年7月18日、沖永良部島の水蓮洞にてクロボシセセリ *Suastus gremius* Fabricius の成虫を採集した。沖永良部島では初記録であると思われるので報告する。本種は、沖縄島以南には土着しているが、これより北では採集記録が少ない。

7月18日の午前水蓮洞の入口に向かう道の途中、葉上に突然本種が飛んできてとまった。はじめは、チャバネセセリかなにかだろうと思っていたが、後翅の裏に黒い斑があったのでクロボシセセリと断定した。周囲の環境は、丈の高い草が密生しており薄暗く食草に成り得るクロツグも見られた。

### 参考文献

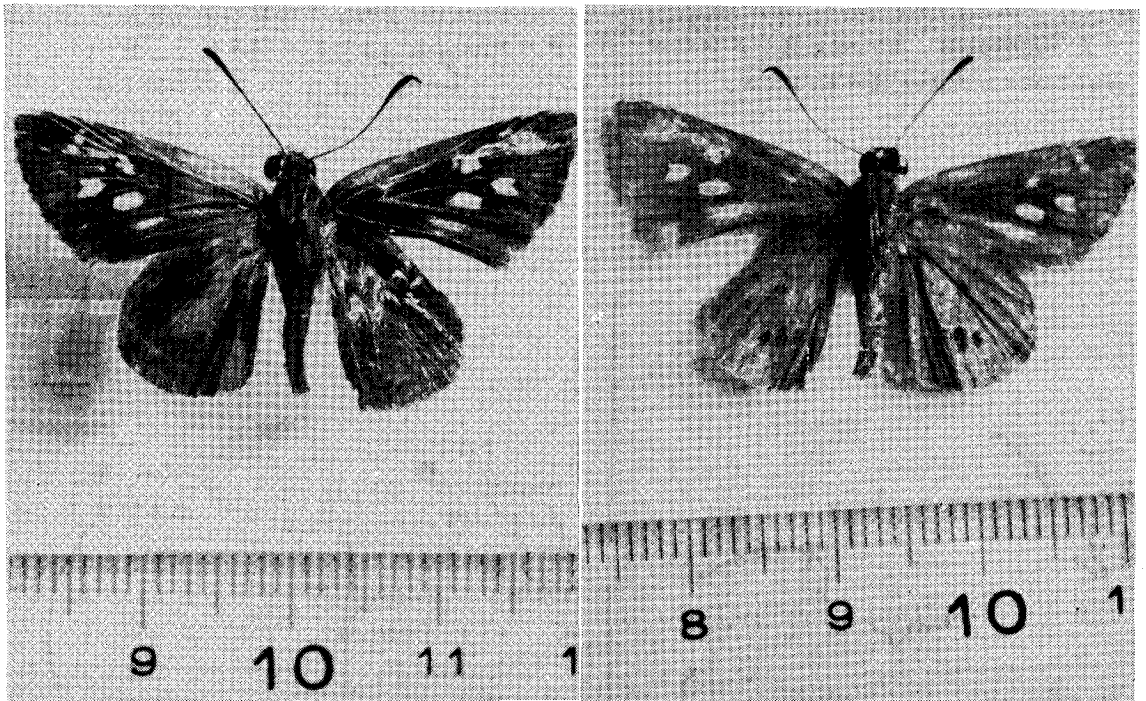
白水 隆 (1984) 原色台湾蝶類大図鑑. 保育社.

福田晴夫 (1984) 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅳ). 保育社.

(くらその けん)

### Plate 説明

クロボシセセリ *Suastus gremius* 沖永良部島水蓮洞 : (1ex., 18.VII, 1992, Leg. 倉園)



〈表面〉

〈裏面〉

# 上甌島中津川の魚類とエビ類

永田 武志

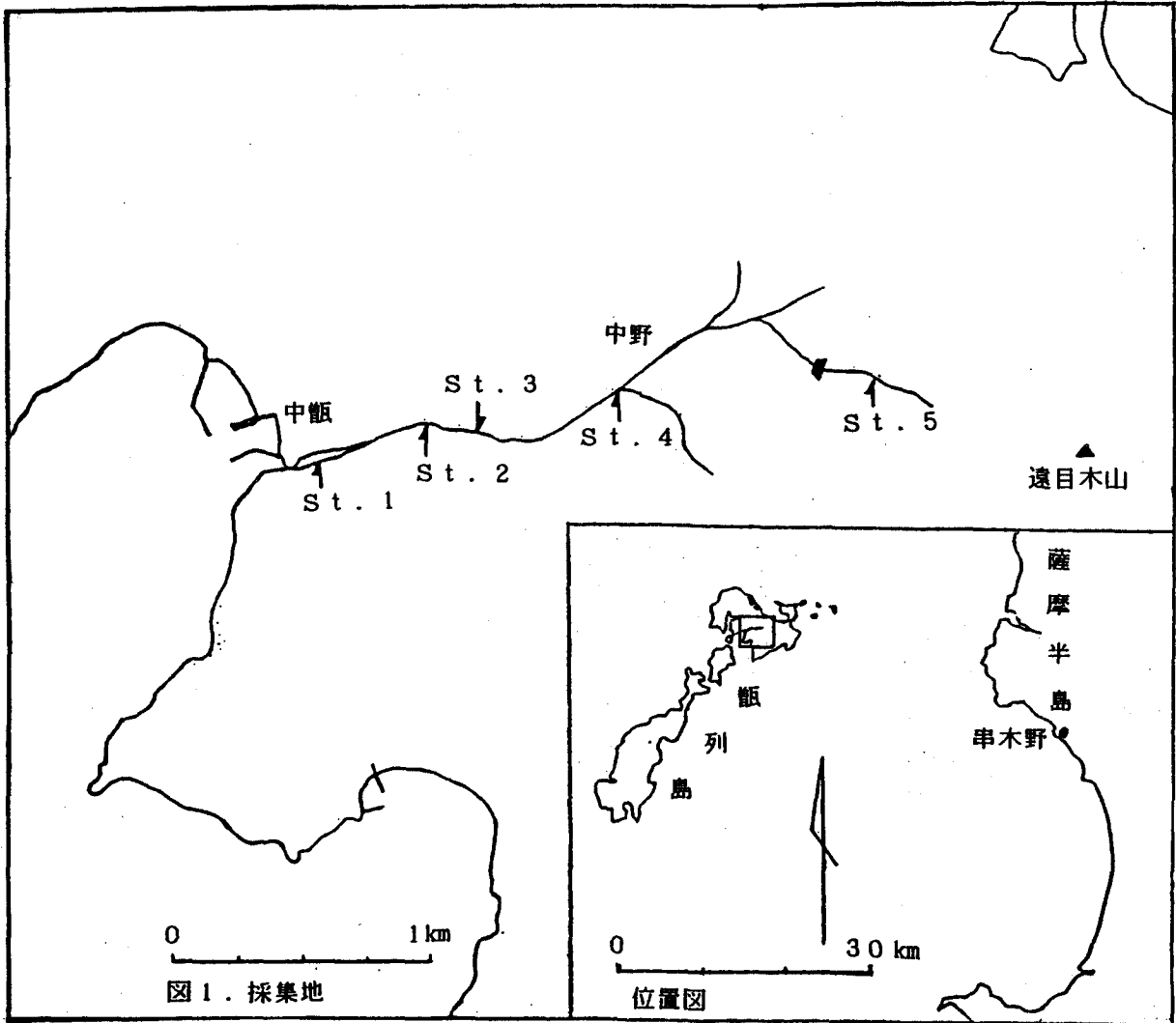
## ○はじめに

1992年10月2日から6日まで上甌島で本会の秋合宿が行われた。筆者は中津川で魚類やエビ類を採集したので以下報告する。

## ○上甌島の位置・地形・気候

上甌島は、薩摩半島の西約40kmの東シナ海に北東から南西へ約40km連なる甌列島の最北に位置する、面積45km<sup>2</sup>、最高標高423mの島である。複雑に入りくんだ湾奥に小規模な平野が見られる以外には北部に海跡湖群や陸繋砂州などの沖積地が認められるだけの山がちな島であり、海岸は断崖になっている部分も多い。

比較的低緯度(30°50' Nを通る)に位置し対馬海流の影響を受けるため年平均気温は17.7°C、年降水量は2317.1mm(中甌)と温暖多雨であり、より低緯度に位置する鹿児島市に比べて年平均気温はやや高く、年較差はやや小さい。



## ○川の説明・採集方法など

中津川は上甌島の中央部を西流する流程約3kmの甌列島最大の河川であり、中甌湾の奥に沖積地を形成する。右岸は河口から中野集落の東端まで約1.5km以上が護岸されていたが、左岸は部分的に護岸されていた。上流にはダムが幾つかあり、下流には水力発電所がある。

図1に示す通り河口域から上流域までの5ヶ所(St.1~5)で手網による採集を行った。採集した魚類・エビ類は10%ホルマリンで固定して持ち帰り同定した。

St.1は船だまりとなっている河口域の一部である。川幅は最大約20m、底質は砂礫質で深い所には一抱えもあるような転石も見られる。3日に左岸の水深約30cm以浅で約30分間採集を行ったが、コトヒキやヒメハゼ、ヒナハゼ、クモハゼ、テッポウエビの1種などが得られた。

St.2はSt.1から上流へ約500mのところを位置し、河口から数えて第1番目の堰のすぐ下流部分にあたる。5日に砂泥からなる川底が水面上にでる干潮時を見計らって約60分間採集を行った。ヒナハゼやゴクラクハゼ、ウシエビの1種などが得られた。

St.3は川幅約5~7mで左岸は護岸されていない。最大水深約30cmで流れは緩やかであった。3日に約30分間採集を行ったが、水際に生い茂るタデ科などの湿生植物の間からミナミテナガエビの幼个体や多数のトゲナシヌマエビが得られた。

St.4は河口から約1.5kmのところを位置し、小さな堰がある流れのやや速い場所である。両岸はコンクリートで護岸されており川底にもコンクリートが張られている。川幅は約4m、最大水深約40cm、底質は礫質である。3日に90分程観察・採集を行ったが、ボウズハゼや群泳する全長30mm前後のユゴイが特に目立った。クロヨシノボリは流れの緩やかなところでよく目に付いた。ミナミテナガエビやヤマトテナガエビ、トゲナシヌマエビ、モクスガニなども見られた。

St.5は今回の採集では最上流部にあたり、砂防ダム(高さ約10m、幅約15m)よりも上流に位置する。高さ1.5m程の滝が数個連なっており、いずれにも水深1m前後の滝つぼが見られる。4日に60分程観察・採集を行った。クロヨシノボリが極めて多く見られたが他のハゼ類は得られなかった。ヤマトヌマエビも個体数が多く、ミナミテナガエビも観察されたがヤマトテナガエビは確認されなかった。

以下リストを示す。但し、イズミハゼは4日にナマコ池で採集されたものである。

### I ユゴイ科 Kuhliidae

#### 1. ユゴイ *Kuhlia marginata*

### II シマイサキ科 Teraponidae

#### 2. コトヒキ *Therapon jarbua*

### III ハゼ科 Gobiidae

#### 3. ヒメハゼ *Flavonigobius gymnauchen*

#### 4. イズミハゼ *Mugilogobius fontinalis*

#### 5. ヒナハゼ *Redigobius bikolanus*

#### 6. ゴクラクハゼ *Rhinogobius giurinus*

#### 7. クロヨシノボリ *Rhinogobius* sp. DA

#### 8. チチブ *Tridentiger obscurus*

#### 9. クモハゼ *Bathygobius fuscus*

10. ボウズハゼ *Sicyopterus japonicus*

I ヌマエビ科 Atyidae

1. トゲナシヌマエビ *Caridina typus*
2. ミソレヌマエビ *Caridina leucosticta*
3. ヤマトヌマエビ *Caridina japonica*

II テナガエビ科 Palaemonidae

4. ヤマトテナガエビ *Macrobrachium japonicum*
5. ミナミテナガエビ *Macrobrachium formosense*

○おわりに

今回は魚類10種、エビ類8種（3種は未同定）が得られた。下調べも不十分なまま手網だけで採集を行った上に河口域で短時間しか採集しなかったということなどもあり、生息していると考えられるが得られなかった種もいる。地元の方の話ではコイとウナギは生息しているということである。河口域で精力的に採集を行えば、ハゼ科の一部やボラ科をはじめその他の周縁性淡水魚が得られるであろう。

末文ながら上甌島滞在中お世話下さった中甌コミュニティーセンターの森さんをはじめ上甌村役場の方々、その他地元の皆様に心から御礼申し上げます。

参考文献

- 川那部浩哉・水野信彦編（1989）日本の淡水魚．山と溪谷社．  
益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・他編（1984）日本産魚類大図鑑．東海大学出版会．  
三宅貞祥（1982）原色日本大型甲殻類図鑑（1）．保育社．

（ながた たけし）

# 1992年梅雨時の与論島の甲虫

永田 武志

筆者は、1992年6月12日から19日にかけて行われた理学部生物学科の与論島野外・臨海実習の際に甲虫を採集したので報告する。

今回は植物採集の合間にピーティングを行ったり、夜の講義後に短時間宿舍周辺の灯火を見回ったりするなどそれ程時間をかけて採集することができなかった。滞在した6日間で採集に費やした時間は計4時間程である。

9科29種の甲虫が得られたが、予想通り隣に位置する沖永良部島との共通種ばかりであった。採集した総種数の過半数をカミキリムシ科とハムシ科の種で占めたが、これは主としてピーティングを行ったからであり、与論島の甲虫相が少なからず反映された結果であるとも言えるのではないだろうか。

与論島にはその地史・地理的要因などから、同じ琉球列島の沖縄島や沖永良部島との共通種（動植物共に）が極めて多いことや固有種・固有亜種が極めて少ないことが知られている。現在甲虫では与論島の固有種は認められておらず、クワガタムシ科が分布しないことや水棲種が少ないことなども特徴的である。また、植物でシダ植物が少ないことやラン科・ブナ科などが分布しないこともこの島の特徴である。

尚、一般に動植物相が貧弱な島であると言われているが、地史を主因とする低標高（最高標高97m）であることや21km<sup>2</sup>という面積、陸水に乏しいことなどを考慮すると一概にそうであるとは言えないだろう。

以下リストを示すが採集者は全て筆者である。

採集地は、赤崎（あかさき）、朝戸（あさと）、賀補呂（かぶろう）、東区（ひがしく）、屋川（やごう）である。

## I オサムシ科 Carabidae

### 1. オオアオモリヒラタゴミムシ *Colpodes buchani*

朝戸：(2exs., 17)

## II コガネムシ科 Scarabaeidae

### 2. オキナワアオドウガネ *Anomala albopilosa yashiroi*

赤崎：(5exs., 13)

### 3. スジコガネ属の1種 *Anomala* sp.

赤崎：(2exs., 13)

### 4. サンカクスジコガネ *Anomala triangularis* t.

赤崎：(3exs., 13)

### 5. イシガキシロテンハナムグリ *Protaetia ishigakia okinawana*

屋川：(1ex., 17)

### 6. タイワンカブトムシ *Oryctes rhinoceros*

東区：(1ex., 13) サトウキビ畑沿いの路上でつぶれていたものである。

前年(6月11日~16日)は7, 8頭得られたということであるが、今回確認された成虫はこれだけである(赤崎と東区において)。前前年は平年並みの降水量、前年は空梅雨に象徴される平年値を大きく下回る降水量という気象事情があったこと



から判断すると湿度の差が本種の発生速度や生存率などに微妙に影響しているのではないかと推測できる（幼虫はサトウキビの搾りカスや堆肥の中でそれらを食べ成長する）。但し、1988年の本種の確認以来その被害が大きいことから何らかの駆除が施された可能性が高く、その影響が現れたということも考えられる。

III コメツキムシ科 Elateridae

7. クシコメツキ属の1種 *Melanotus* sp.

屋川：(1ex., 17)

IV ベニボタル科 Lycidae

8. チョウセンハナボタル *Plateros koreanus*

賀補呂：(1ex., 15)

V テントウムシ科 Coccinellidae

9. アマミアカホシテントウ *Chilocorus amamensis*

朝戸：(1ex., 17)

VI ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

10. *Gonocephalum* sp.

赤崎：(1ex., 14)

VII カミキリムシ科 Cerambycidae

11. ホソガタヒメカミキリ *Ceresium elongatum*

朝戸：(1ex., 17)

12. ヨツスジトラカミキリ *Chlorophorus quinquefasciatus*

屋川：(1♂1♀・1ex., 17)

13. オオシマウスアヤカミキリ *Bumetopia oshimana*

賀補呂：(1ex., 15)

屋川：(1ex., 17)

14. アトモンチビカミキリ *Sybra baculina oshimana*

賀補呂：(4exs., 15)

屋川：(1ex., 17)

15. アヤモンチビカミキリ *Sybra ordinata llochoona*

朝戸：(1♂1♀, 17)

賀補呂：(1♀, 15)

屋川：(3♀♀, 17)

16. サビアヤカミキリ *Abryna obscura*

屋川：(1ex., 17)

17. オキナワキボシカミキリ *Psacotha teneburosa intermedia*

朝戸：(4♂♂1♀, 17)

18. ムツボシシロカミキリ *Olenecamptus indianus*

屋川：(1ex., 17)

VIII ハムシ科 Chrysomelidae

19. オキナワイモサルハムシ *Colasposoma auripenne*

朝戸：(2exs., 14) (4exs., 17)

屋川：(2exs., 17)

20. セアカケブカサルハムシ *Lypesthes fulvus*

- 朝戸：(1ex., 17)
21. ウリハムシ *Aulacophora femoralis*  
朝戸：(1ex., 14)
22. オキナワイチモンジハムシ *Morphosphaera coerulea*  
朝戸：(11exs., 17)
23. カミナリハムシ *Altica cyanea*  
朝戸：(1ex., 14)
24. ヨツモンタマノミハムシ *Sphaeroderma quadrimaculatum*  
屋川：(2exs., 17)
25. タテスジヒメジンガサハムシ *Cassida circumdata*  
屋川：(1ex., 17)
- Ⅸ ゾウムシ科 Curculionidae
26. サカグチクチプトゾウムシ *Oedophrys sakaguchii*  
朝戸：(4exs., 17)  
屋川：(2exs., 17)
27. ハイイロクチプトゾウムシ *Cyphicerus kuchibutonus*  
屋川：(2exs., 17)
28. オキナワクワゾウムシ *Episomus mori*  
朝戸：(5exs., 17)

#### 参考文献

- 森本 桂・他(1984~1986)原色日本甲虫図鑑(Ⅰ)~(Ⅳ). 保育社.
- 田中 洋・他(1992)奄美群島に侵入したタイワンカブトムシ. SATSUMA, 40(105)  
64~69. 鹿児島昆虫同好会.

(ながた たけし)

# ヒョウタンゴミムシの採集

姫野 尊雄

筆者は1992年夏、ヒョウタンゴミムシ *Scarites aterrimus* Morawitz の採集を行った。場所は砂浜海岸の波打ち際付近に散在する、漂流物などが堆積した比較的大きなゴミだまりである。特に餌となるハマトビムシなどが多く棲むものを選び、砂を掘り起して採集した。

○7/30,31 晴れ 鹿児島県肝付郡内之浦町内之浦湾内砂浜 4 exs.  
午前中は主に砂下15cm程の所で採集したが、午後になると砂の温度がかなり上昇したため砂下30cmの所で採集したこともあった。

○8/2 曇り後小雨 鹿児島県日置郡吹上町入来浜 3 exs.  
この日は小雨の中採集したが、うち2匹は砂下ではなくゴミの中にいた。

○8/27 晴れ 福岡市西区今宿長垂海岸 1 ex. 幼虫 1 ex.  
ゴミの中より体長2cm程の幼虫を採集した。

今回上記の幼虫を羽化させることができたのでその経過を以下に記す。

飼育は直径6cm、高さ12cm程の円筒状の透明な容器で行い、採集場所の砂を5分の3程入れた。容器の砂下部分は光を遮るため紙で覆った。尚、観察は毎日主に朝行った。

- 8/27~30 幼虫は出入口が4ヶ所ある坑道を掘りその中にひそんでいた。筆者は餌としてダンゴムシを与えたが全く食べなかった。
- 8/31 容器の底に幼虫には大きめの蛹室を作っていた。
- 9/2 頭部、胸部を強く内側に曲げ、L字型に近い形で前蛹期に入っていた。
- 9/4 蛹化。体長は約1.4cm
- 9/13 羽化。観察時は既に後翅は上翅の下に収まっていたが体壁も上翅もクリームだった。
- 9/17 身体がほぼ固まり、砂を少し掘った後があった。後に取り出して体長を計ると約1.7cmだった。

今回同じ場所で成虫と幼虫の両方を採集したわけだが、一夏で一体何世代繰り返すことができるのか興味ある所である。尚、1992年沖永良部島夏合宿では本種は採集されなかった。

参考文献

上野俊一・他(1984)原色日本甲虫図鑑(II)。保育社。

(ひめの たかお)

# 1992年リュウキュウムラサキ飼育報告

桐野 敦子

1991年10月から12月にかけて飼育したリュウキュウムラサキについて報告する。

リュウキュウムラサキ *Hypolimnas bolina* はインドから中国南部,台湾,フィリピン,ボルネオ,オーストラリア東北部,ポリネシア,ミクロネシアに至るまで広く分布する。日本の土着種ではないが日本での迷蝶としての記録が多く,また地理的変異が著しいことから亜種間の分布や交雑に関する研究も多い。

## 1. 母蝶の記録

今回飼育した個体群は1991年10月7日,市内山田町で採集された1♀から得られた卵の一部である。母蝶のデータを以下に記す。

DATA: リュウキュウムラサキ 1♀〔赤斑型〕

鹿児島市山田町 1991年10月7日 Leg. 米沢俊彦

## 2. 幼虫期について

孵化後,同一容器で飼育を行ったため,個々の詳細な記録を欠いた。

- 母蝶の産卵した一部を譲ってもらったので総産卵数は不明。
- 譲られた卵の孵化率(87.6%)
- 飼育中の幼虫の死亡はなかった。

## 3. 羽化個体の特徴

母蝶の標本を見ていないので,本報告では飼育より得られた羽化個体についてのみの斑紋,色彩変異についてまとめてみたい。

### (1) 蛹化から羽化までの経過

- 蛹化日 11.26 (1♂), 11.27 (5♂), 11.28 (4♀,\*1ex.), 11.29 (1♂)  
11.30 (1♂1♀), 12.1 (1♂2♀), 12.2 (1♂3♀), 12.3 (1♂1♀)  
12.4 (5♀), 12.5 (\*1ex.), 12.6 (1♀) \*は蛹化後死
- 羽化数 11♂17♀ 計28個体
- 羽化日 蛹の平均日数 13.4日 (最長 16日 最短 12日)

1992年

12月

日	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
♂	2	4	0	0	3	0	1	0	1	11♂
♀	0	0	2	1	3	2	4	0	5	17♀
小計	2	4	2	1	6	2	5	0	6	28

左記は羽化日と羽化した雌雄別の個体数を表にまとめたものである。

♂ : ♀ = 11 : 17  
♂ / ♀ = 0.82

(2)羽化時の異常

11♂17♀が羽化した。これには異常羽化の個体も含まれている。

- 乾燥による羽化脱出失敗 3♂
- 右前後翅が縮む（羽化時に落下したためか。）2♀
- 腹部に異常（腹部が肥大）1♀
- 奇形翅（蛹化した際、左前翅にあたる部分の色素と表皮が抜けていた。1♂が羽化したが生左前翅は著しく小さく翅脈がみられなかった。）

(3)雄の斑紋，色彩

♂の斑紋，色彩には1型にまとめられる。

- 前翅表面斜白帯が青紫色の鱗紛で被われる。前後翅表垂外縁に白点列が表れない。（1♂を除く）後翅中央带状紋の輪郭不明瞭。これらは台湾型に見られる特徴である。しかし，前翅裏面基部は赤みを帯び，赤斑型の形質もあわせてみられる。

(4)雌の斑紋，色彩

♀の斑紋，色彩には赤斑型と台湾型の2型が認められた。

- 前翅，後翅表に朱赤色鱗がでる。後翅に白斑が出，周辺に青色，朱色の鱗紛が広がるものと白斑を欠き，赤色鱗が薄く出現するものがある。赤斑型 *f. bolina* の特徴がある。右表中のbである。
- 前翅表白帯が弱く青紫色の鱗紛を被る。後翅中央の白帯が弱い。台湾型 *f. kezia* とみられる。右表中のdにあたる。

		前翅斜白帯	
		明瞭～やや明瞭	紫を被る
前翅に後翅縁赤斑	あり	a 0	b 8
	なし	c 0	d 7

♀の前翅白帯，橙赤斑の発達  
(17♀中2♀は記録を欠いた)

参考文献

福田晴夫 他（1983）原色日本蝶類生態図鑑II．保育社。  
 田中 洋・南 雄二（1976）奄美大島産リュウキュウムラサキの飼育記録（1973）S A T S U M A 25（72）：119-120  
 二町一成（1984）迷チョウ数種についての飛来源の問題．昆虫と自然．19（10）：4-8  
 平原洋司（1976）リュウキュウムラサキ台湾型とフィリピン型の飼育例．S A T S U M A 25（72）：121-127  
 森下和彦（1976）リュウキュウムラサキ．やどりが．（85/86）：3-25

（きりの あつこ）

# 会 員 名 簿

1993年3月1日現在

- 顧問：山下 智（教養部生物学教室教授）  
主将：永田 武志（理学部生物学科2年）  
副主将：光永佳奈枝（理学部生物学科2年）  
泊 信義（大学院農学研究科2年）  
小野 雅幸（農学部獣医学科4年）  
金井 賢一（理学部生物学科4年）  
野村 弥生（教育学部中学理科4年）  
的場 亮平（農学部獣医学科4年）  
吉谷 弘子（理学部生物学科4年）  
牛ノ濱 孝（理学部生物学科3年）  
桐野 敦子（教育学部小学校課程3年）  
中村 理樹（農学部獣医学科3年）  
濱田しおり（農学部生物環境学科3年）  
米沢 俊彦（理学部生物学科3年）  
米山 章一（理学部数学科3年）  
坂口 志保（理学部生物学科2年）  
瀬戸口芳成（農学部生物生産学科2年）  
堂園 隆男（教育学部小学校課程2年）  
東 幸希（教育学部小学校課程2年）  
藤田 寛（教育学部中学理科2年）  
倉園 憲（教育学部小学美術1年）  
姫野 尊雄（農学部生物生産学科1年）

## 編集後記

昨年に引き続き、LEBEN 23号を発行することができました。今号も前号と同じ編集の形を取っております。今回は、昨年学祭で沖永良部島特集のパンフレットを発行したことから、各自が早めにLEBEN作成に取りかかっていたことから、それ程あわてることなく準備ができたようです。内容は各個人の特徴を重視したものになっております。

これからは私達生研部員は野へ山へ採集に出かけるつもりです。そこで楽しい思い出のほか、自然や生き物に対する知識・感覚そしてそれらを深く追求していく精神を得たいものです。

微々たるものではあります、個人の研究発表の場としてのLEBENを次号に続けたいと思います。

また生物研究会の発行物のバックナンバーの販売を行っております。ご希望の方にはリストを100円でお送りしております。長4型の封筒と100円分の切手を同封のうえ本会宛にお知らせください。

(光永)

LEBEN 23号

鹿児島大学生物研究会会誌

発行日：1993年4月1日

編集者：光永佳奈枝・藤田 寛・倉園 憲・姫野尊雄

発行者：永田武志

発行所：鹿児島大学生物研究会

(〒890 鹿児島市郡元一丁目21-24 鹿児島大学学友会内)

印刷所：明るい窓社